

苫小牧市
都市計画
マスタープラン

資料編

資料

1. 苫小牧市の地域特性
2. 市民意向の把握
3. 計画策定の流れ

1. 苫小牧市の地域特性

1-1 データで見る苫小牧市の特性

(1) 産業・交通環境

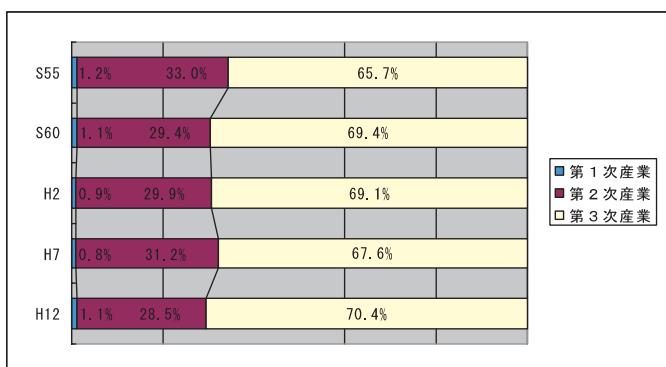
①道央圏の交通の要衝

苫小牧市は、特定重要港湾苫小牧港を有し、鉄道幹線や国道、高速自動車道など陸路交通のアクセスポイントであるとともに、新千歳空港に隣接しており、北海道の海と空と陸の交通網の要に位置しています。

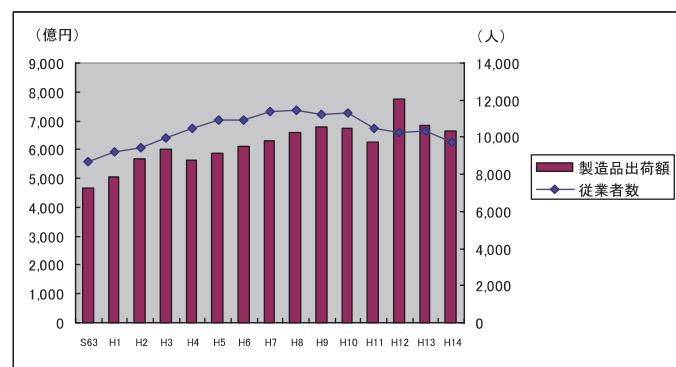
②工業を中心に発展を続ける産業

苫小牧市は、製紙・パルプ工場をはじめ、非鉄金属や石油精製、化学工業、自動車工業などの多様な企業が苫小牧港を中心に立地しており、工業を中心とした第2次産業を中心にまちが発展してきたといえます。

産業別就業者数の推移



製造品出荷額・従業者数の推移



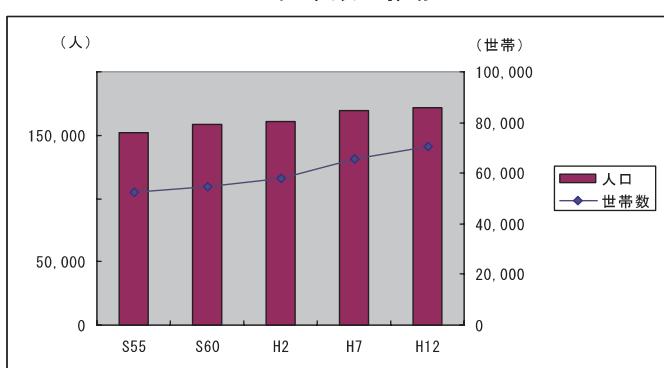
(2) 生活環境

①継続的な人口の増加と高齢化の進展

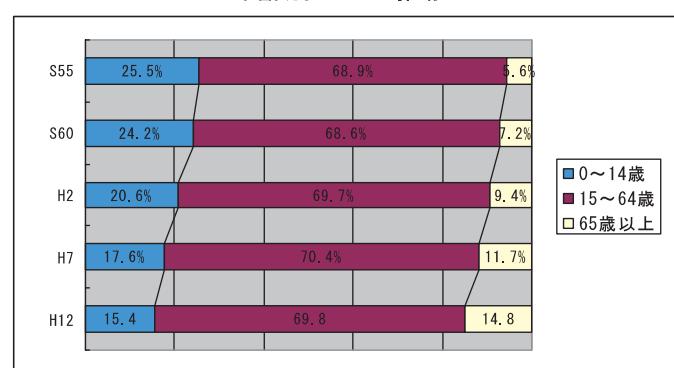
苫小牧市的人口と世帯数は一貫して増加を続けており、平成12年には人口17万3千人余、世帯数7万3千世帯余となっています。

一方で、年齢別的人口をみると、0~14歳の幼少人口が減少をつづける一方で、65歳以上の高齢者人口は継続して増加しており、平成12年にはほぼ同数となるなど少子高齢化の傾向が進んでいます。

人口・世帯数の推移



年齢別人口の推移



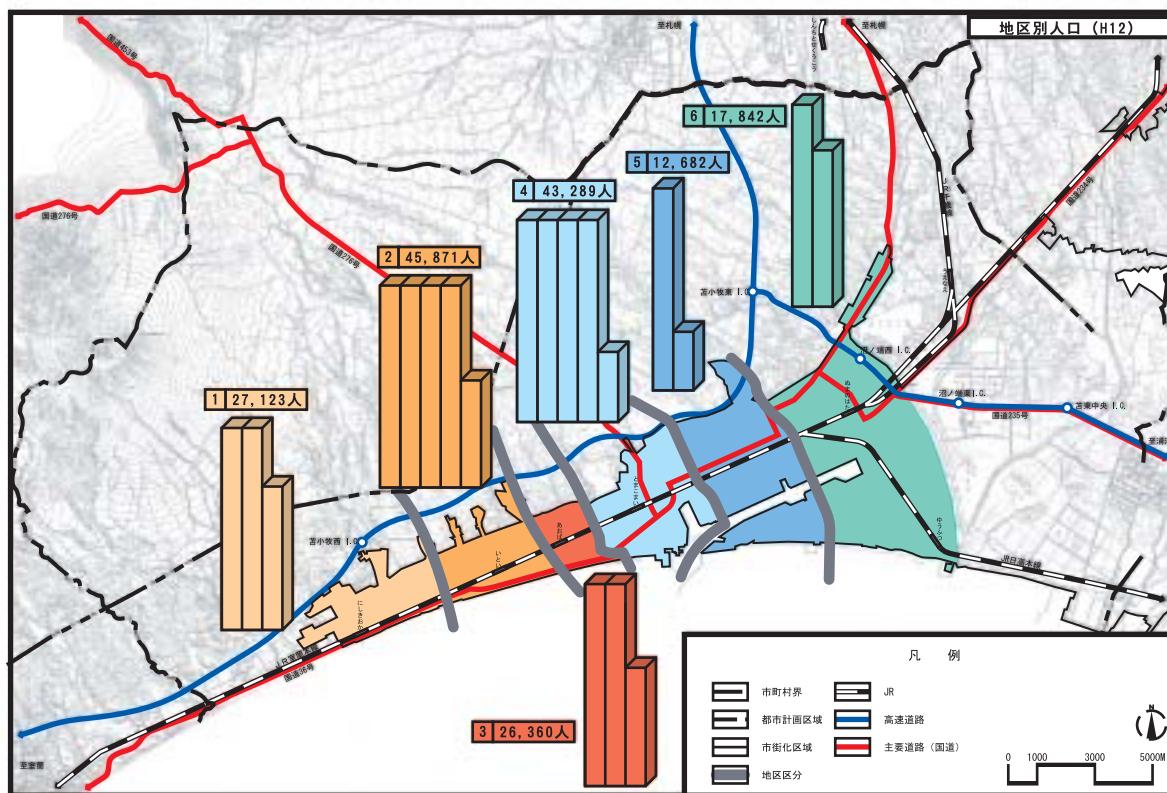
②中心地区の高齢化と周辺地区の人口増加

苫小牧市の市街地を生活圏などから 6 つの地域に区分し、地域ごとの人口構成の特性をみると、苫小牧駅周辺の市の中心部から西側の地域に多くの人口が居住しています。人口増加率をみると、西部西地域、中央部東地域、東部地域といった市の外延部で人口増加が著しくなっています。

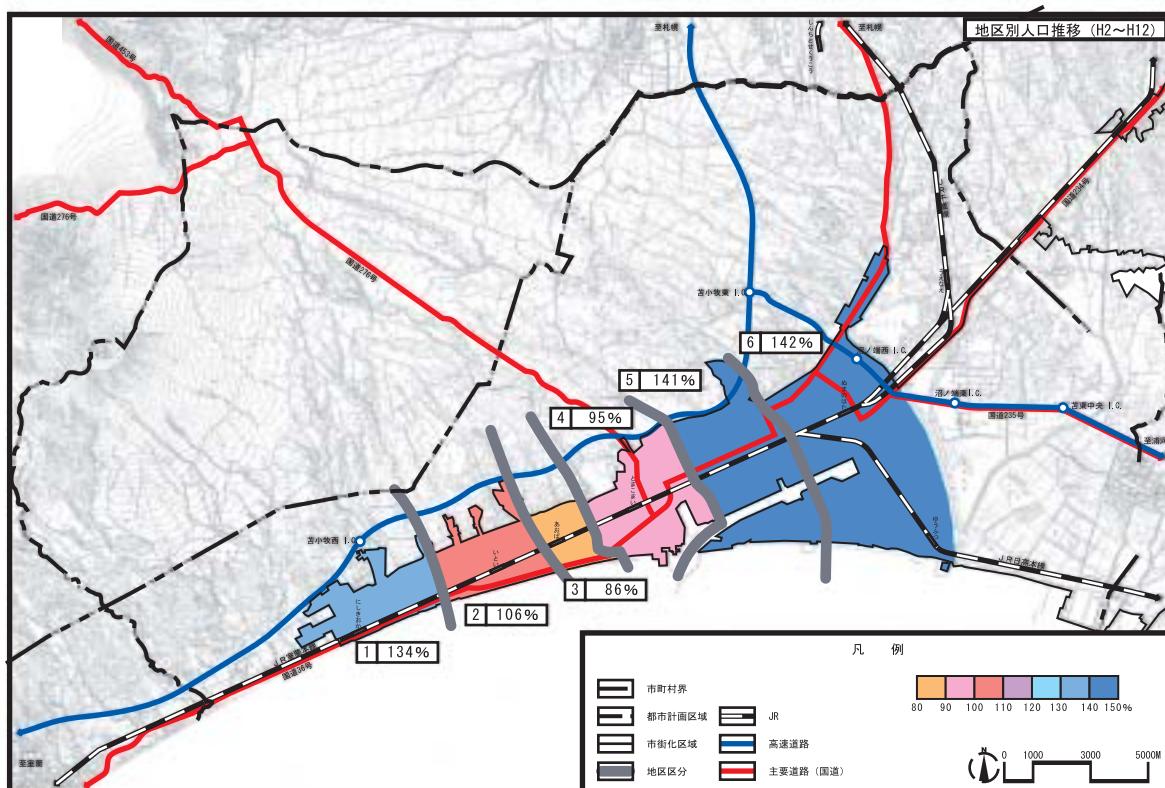
地域ごとの高齢化率をみると、人口が減少傾向にある中央部西地域、中央部中地域で高齢化率が高く、人口増加が著しい市の東側の地域で高齢化率が低くなっています。

地域別人口・高齢化率

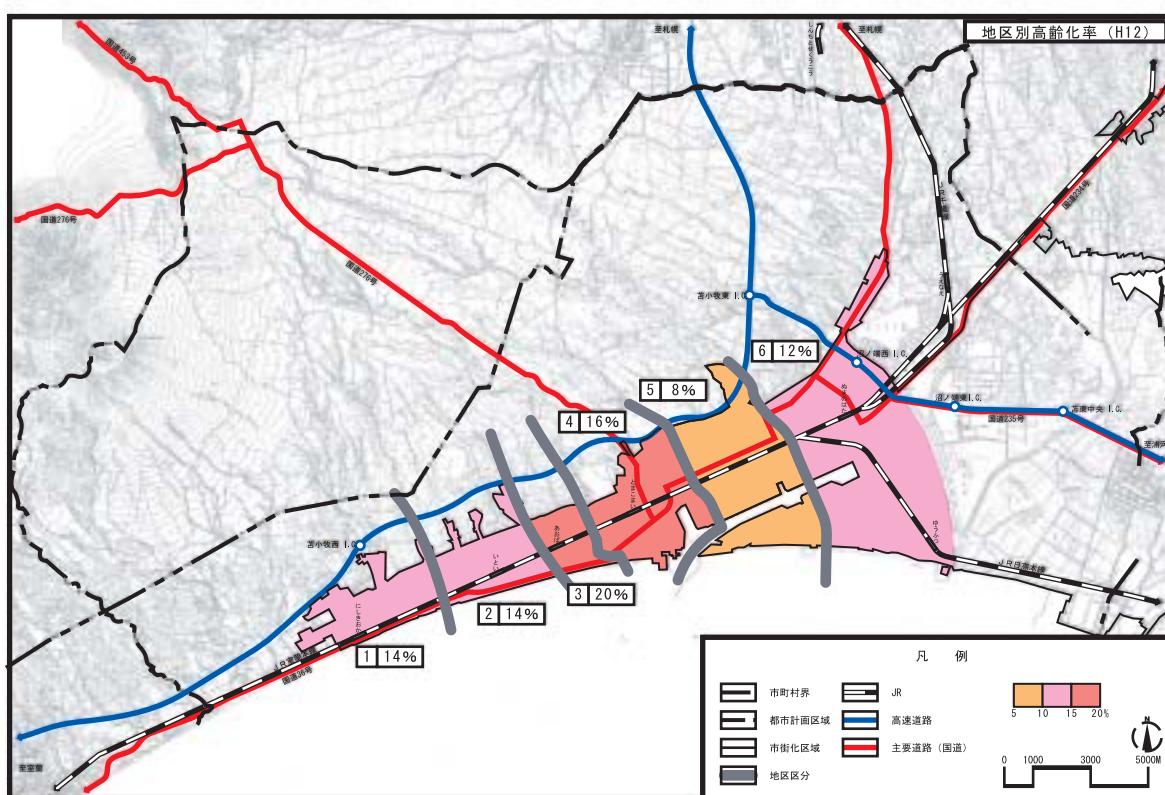
地域		H2 人口 (人)	H12 人口 (人)	H12/H2 (%)	H12 高齢者 人口 (人)	H12 高齢化率 (%)
1	西部西地域	20,308	27,123	134	3,760	14
2	西部東地域	43,326	45,871	106	6,424	14
3	中央部西地域	30,758	26,360	86	5,186	20
4	中央部中地域	45,610	43,289	95	6,807	16
5	中央部東地域	8,991	12,682	141	1,032	8
6	東部地域	12,573	17,842	142	2,089	12
全市		161,566	173,167	107	25,298	15



地域別人口



地域別人口推移（平成 2 年～12 年）



地域別高齢化率（平成 12 年）

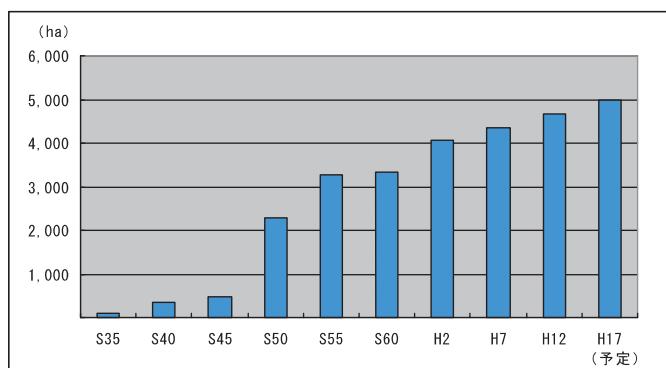
③土地区画整理事業など面開発による住宅地開発と住宅建設の進展

苫小牧市の市街地のほとんどは、土地区画整理事業によって計画的に整備されており、その面積は約 5,000ha にも達し、市街化区域面積約 15,000ha の約 1/3 を占めます。また、工業専用地域を除いた市街化区域面積約 6,000ha 内の土地区画整理事業施工面積は約 3,000ha であり、その約 50%を占めています。

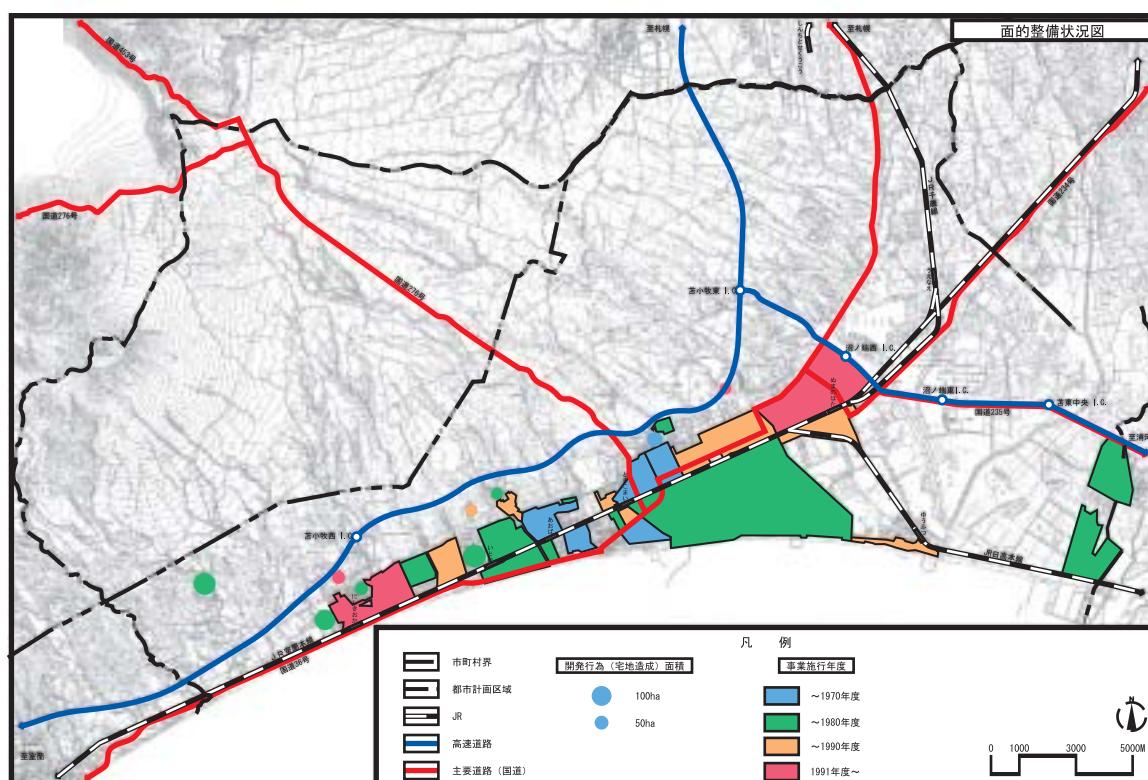
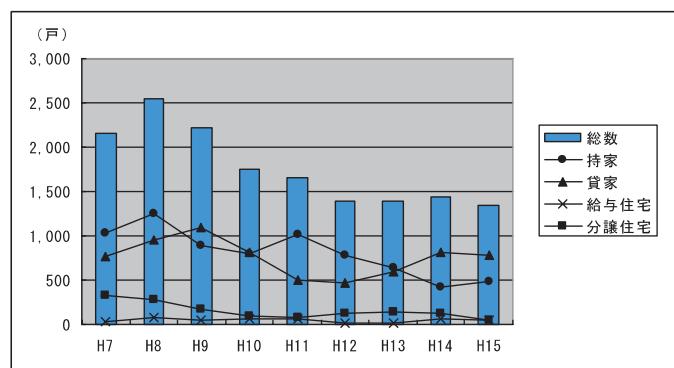
開発の推移としては、J R 苫小牧駅、J R 青葉駅周辺の中心部から、徐々に外延部に向けて開発が進んでいます。

住宅の建設戸数は、近年は 1,500 戸程度で推移しており、持ち家が減少し貸家が増加する傾向にあります。

土地区画整理事業面積の推移（各年次の積み上げ）



住宅建設戸数の推移



(3) 自然環境

①豊かな自然環境

苫小牧市は、世界でも珍しい溶岩円頂丘がある樽前山の裾野にまちが形成されており、南には太平洋を臨み、東にはウトナイ湖を有する勇仏原野が広がるなど豊かな自然環境に恵まれています。また、樽前山麓は伏流水による独特の湖沼群を形成しており、それを水源とする「おいしい水のまち」として知られています。

ウトナイ湖はわが国初の野鳥の聖域「サンクチュアリ」になっているとともに、ラムサール条約登録湿地に指定されているとともに、樽前山麓の森林の一部は北海道大学苫小牧研究林となっているなど、豊かな自然を生かした活動がみられます。

②緑の現況

1) 緑被率

市街化区域（用途地域）内における植生地の割合は63%となっており、市街地内にも充分な量の緑が確保されています。

植生地の状況

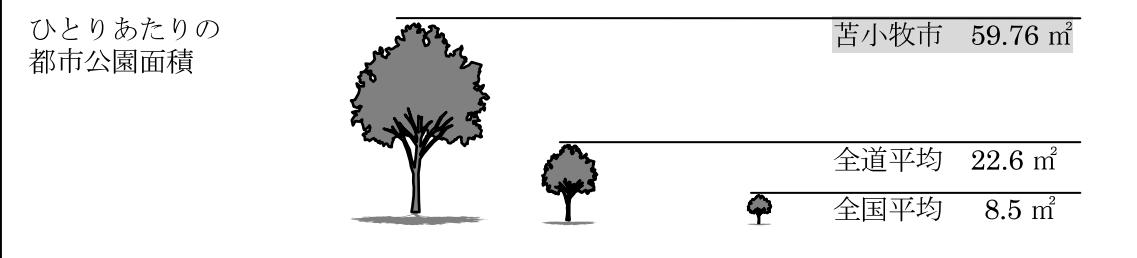
	市街化区域 (用途地域)		都市計画区域 (市街化区域+市街化調整区域)	
	面積(ha)	占有率(%)	面積(ha)	占有率(%)
樹林地：針葉樹林、広葉樹林	3,060	20	17,925	46
草地：芝地、ススキ、ササ	68	0	990	3
農地：水田、畑、牧草地	5	0	1,315	3
その他植生地：裸地、公園植栽地等	6,570	43	10,452	27
植生地計	9,703	63	30,682	79
非植生地	5,727	37	8,111	21
合計	15,430	100	38,793	100

2) 都市公園整備状況

苫小牧市の人当たりの都市公園面積は59.76 m²です。これは全国平均、全道平均を大きく上回るもので、都市公園の整備面積に関しては水準が高いといえます。

周辺市町村の整備状況としては、千歳市が44.81 m²、白老町が55.91 m²、恵庭市が19.90 m²です。また都市規模の近い帯広市は37.26 m²となっています。

※苫小牧市は平成15年3月末現在。 全道平均、全国平均は平成14年3月末現在。



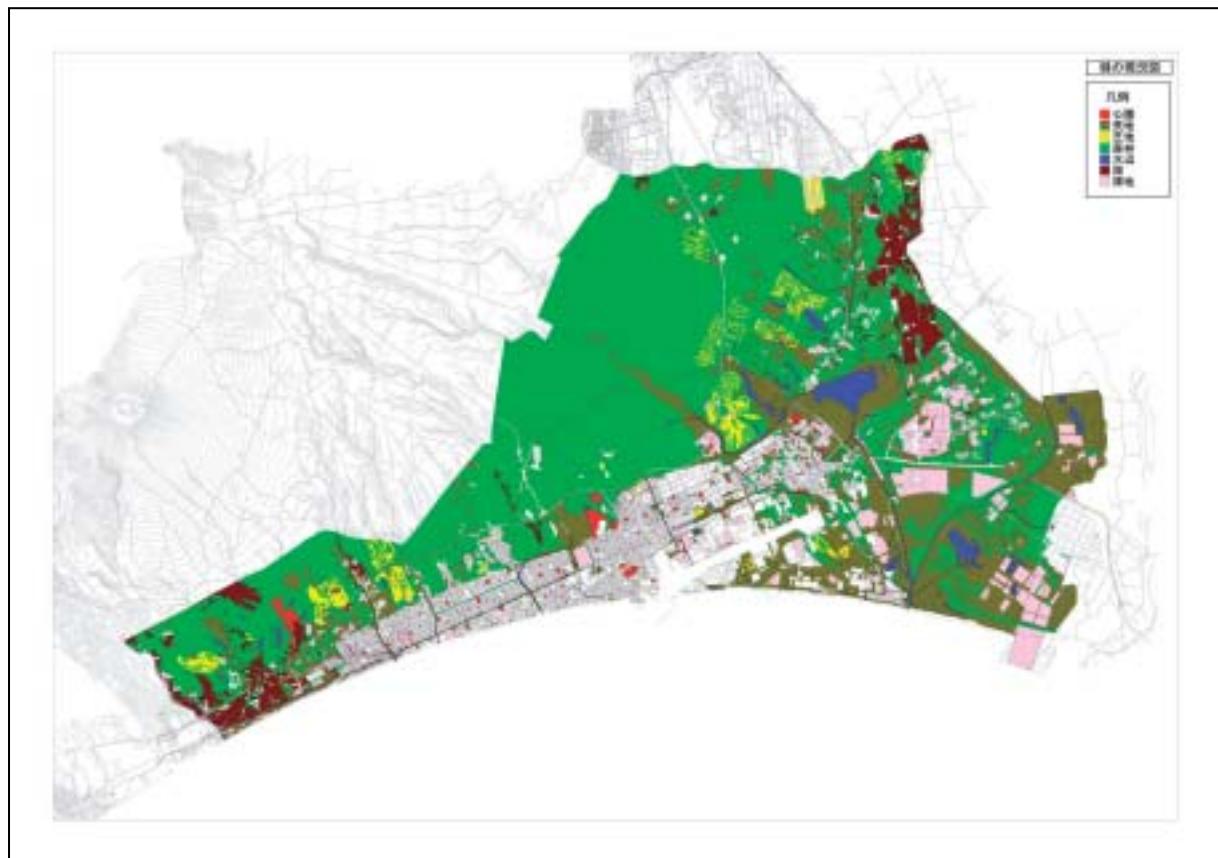
一人あたりの都市公園面積の比較

3) 地域制緑地（法や条例でまもられる緑）の状況

苫小牧市内で法律や条例で担保されている緑地のうち主なものは下記のとおりです。

地域制緑地の状況

種別	名称
河川区域	39 河川（2 級河川 10 、準用河川 5 、普通河川 24）
保安林	王子山林、高丘生活環境保全林、植苗国有林防風林等 34 カ所
北海道自然環境等保全条例	糸井環境緑地保護地区、勇払川学術自然保護地区
苫小牧市自然環境保全条例	沼ノ端拓有樹林地区、勇払川旧古川地区、樽前ガロー地区、トキサタマツブ湿原地区、ウトナイ沼南東部砂丘地区、若草小学校樹林など



緑の現況

1－2 上位計画・関連計画

(1) 苫小牧市基本構想（1988年）

人間環境都市

苫小牧市は、昭和63年「苫小牧市総合計画（基本構想・第3次基本計画）」を策定し、理想の都市像である「人間環境都市」の実現をめざしてまちづくりを展開してきました。

「人間環境都市」の理念は、人間主体のまちであり、豊かな自然と調和した文化の薫り高く潤いのある快適な環境の中で、すべての市民が持てる能力を発揮しながら、共に生き生きと暮らし、未来に向かってたくましく歩むまちであるとしています。

「人間環境都市」の実現に向けては、以下のような施策の大綱を定め、それぞれの分野において具体的な施策の展開を行っています。

平成10年には平成19年を目標年次とする「第4次基本計画」が策定されています。

【施策の大綱】

●あたたかい心がふれ合う 福祉都市	<ul style="list-style-type: none"> 明るく住みよい地域社会をつくる 生き生きとした高齢化社会を実現する 生きがいを高める福祉を実現する
●学びつくる喜びが高まる 文化都市	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性をはぐくむ学校教育を進める 可能性を伸ばす社会教育と社会参加を進める 個性ある市民文化を創造する 郷土愛をつちかうまちのシンボルをつくる
●潤いある街並みが息づく 快適都市	<ul style="list-style-type: none"> 秩序ある土地利用を進める 美しく情緒ある都市空間を創造する 良好な自然環境を保全する
●健やかな暮らしが広がる 健康都市	<ul style="list-style-type: none"> 健全な心と体をつくるスポーツとレクリエーションを広める 清潔で健康な暮らしを実現する 安定した暮らしを実現する 暮らしの安全性を高める
●たくましい力がみなぎる 開発都市	<ul style="list-style-type: none"> 未来を開く公と技術集積都市を実現する 地域の特性を生かした農林水産業を育てる 地域経済をリードする工業を伸ばす 多様なニーズにこたえる商業を育てる 楽しさふくらむ観光を育てる 世界と結ぶ物流の拠点をつくる 地域を結ぶ交通・情報通信ネットワークを形成する 国際交流と国内交流の輪を広げる 市民の期待にこたえる行政を進める

【第4次基本計画（平成10～19年度）の主な施策】

まちづくりの課題	第4次基本計画の主な施策
少子・高齢化などに対応する福祉施策の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターの新設 ・市立養護老人ホームの改築 ・心身障害者地域共同作業所の設置 ・介護保険制度導入 ・緊急通報システム、給食サービスの拡充 ・デイサービス、短期入所、移動入浴車などの充実 ・総合療養センターの実現に向けた取り組み ・障害者、介護者に対する支援強化 ・福祉マンパワーの確保 ・在宅介護支援センター、老人保健施設の設置促進 ・保育者の新設 ・子育て支援センターの新設 ・保育サービスの充実 ・男女共同参画社会の形成
人材育成と文化・スポーツの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の新設 ・教育センターの新設 ・第1学校給食共同調理場の改築 ・小・中学校の改築改修など教育環境の改善 ・（仮称）文化・交流センターを中心に市民の学習活動を支援 ・生涯学習情報提供の一元化とシステム化 ・児童センターの新設 ・（仮称）勇払会所の新設と勇払史跡公園の整備 ・伝統文化の継承振興とアイヌ文化の振興策の展開 ・屋内スケートセンター（沼ノ端スケートセンター）、武道館などの新設 ・緑ヶ丘陸上競技場とハイランドスポーツセンターの改修
都市の魅力づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・オートリゾート苫小牧「アルテン」に温浴施設新設 ・「（仮称）50年の森」の造成 ・都市計画マスタープランの策定 ・個性ある都市景観形成への取り組み ・ウォーターフロントの促進 ・水辺空間の創出
環境の保全とリサイクルの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・環境基本条例の制定 ・ウトナイ湖周辺環境保全要綱の策定 ・沼ノ端新ごみ処理施設の供用開始 ・リサイクルプラザの新設とリサイクル事業の推進 ・ごみ分別の徹底と収集処理体制の見直し ・小・中学校焼却炉の廃止 ・糸井2号炉のダイオキシン対策と建て替えに向けた取り組み
21世紀への都市基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・市立総合病院の改築 ・美沢錦岡通などの道路整備や区画整理事業の推進、上・下水道の整備拡充 ・救急救命士やレスキュー隊の設置による救助・救急体制の確立 ・情報化への取り組み ・市営バスの利用者サービスの向上
経済の活性化と地元産業への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・苫小牧東部開発の推進 ・苫小牧港の整備促進 ・新千歳空港の整備促進 ・港湾・空港機能を活用した産業振興 ・苫小牧市テクノセンターを軸に企業の技術力向上と体質強化 ・中心市街地活性化に向けた取り組み、中心商店街と地域商店街の育成 ・活魚蓄養施設の整備 ・モーラップ樽前荘と樽前山七合目ヒュッテの改築 ・モーラップスキーエリアの整備・再開 ・観光案内所の設置
市民参加によるネットワークの良いまちづくりと行政改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各種懇談会やフォーラムの開催、懇話会・審議会の公募制導入 ・広報・広聴機能の充実 ・情報公開条例制定による行政情報の公開と提供 ・行政情報化総合計画の推進や事務事業の簡素化、効率化、民間委託などによる機能的な行政運営 ・効率的な財政運営 ・広域連携の強化

(2) 環境基本条例・環境基本計画

①環境基本条例（1999年）

人と自然が共生できる美しく住みよい苫小牧市の実現

苫小牧市は、平成11年に環境基本条例を定め、「人と自然が共生できる美しく住みよい苫小牧市の実現」を目指し、以下の目的・基本理念・基本方針を掲げています。

現在、平成12から14年度にかけて、環境基本条例の実行計画である環境基本計画を策定しているところです。

【目的】

- ・ 良好的な環境の保全について、基本理念及び施策の基本となる事項を定める。
- ・ 市、事業者及び市民の責務を明らかにする。
- ・ 環境の保全及び創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進する。
- ・ 現在及び将来の市民の健康で文化的な生活の確保に寄与する。

【基本理念】

- ・ 良好的な環境の恵みを享受できること。
- ・ 人と自然が共生し、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築。
- ・ 地球環境保全の積極的な推進。

【基本方針】

- ・ 大気、水、土壤等を良好な状態に保持すること。
- ・ 希少な野生動植物の保護、その他生物の多様性の確保、森林、農地、水辺等における多様な自然環境の保全。
- ・ 身近な自然との豊かな触れ合い等の推進。
- ・ 廃棄物の減量、資源の循環的な利用、エネルギーの有効利用等の促進。

②環境基本計画（2003年）

自然は未来からの預かりもの、生活（くらし）や産業（しごと）の中で循環を目指し、環境負荷の小さいまちづくりを実現する

環境基本条例に基づき、条例の基本理念である、将来に向けて本市の環境に関する施策を総合的、計画的に推進し、さらにより良い環境を次世代に引き継ぐ循環型環境都市を形成していくことを目的として、平成15年に苫小牧市環境基本計画が策定され、以下に示す基本理念のもと、大目標と小目標が位置づけられています。

基本理念	大目標	小目標
自然は未来からの預かりもの、生活（くらし）や産業（しごと）の中で循環を目指し、環境負荷の小さいまちづくりを実現する	【自然】 生命（いのち）を育む森林（もり）や水を守るまち	(森林の保全)：樹海に包まれた豊かな環境を次代へ引き継ぐ (川の保全)：おいしい水とやすらぎをもたらす川を大切にする (湿原の保全)：苫小牧の原風景、多様な生物の宝庫～貴重な湿原を市民が親しみ守る (街の緑)：緑あふれる潤いのある街並みをつくる (海の保全)：命のふるさと～いこい遊べる、豊かできれいな海 (生物多様性の確保)：すべての生き物と共生する生態系の保全 (自然とのふれあいの場・仕方)：自然から学び、ともに生きる～気軽に自然とふれて遊び学べる空間と人づくり
		(廃棄物の削減)：資源は有限、ゴミをつくらない暮らし (CO ₂ の削減・交通量の削減)：自分のため地球のため、CO ₂ を減らす生き方をする (安全・安心・快適)：さわやかな空気青い空のもとで健康に暮らせるまち (消費行動)：私のお金が世界を動かす～自分の買っているものを知る (景観)：歴史的価値を感じさせる建物を大切に、人の暮らしの似合うまち
		(循環)：地場にあるモノ・サービスで、循環型社会、循環型産業を育成する (エネルギー・技術)：環境負荷の少ないエネルギー利用の推進と、地球環境貢献型技術の発信 (土地利用・交通)：持続可能な土地利用・交通 (輸送)：輸送に伴う環境負荷の低減 (環境マネジメントシステム)：産業の環境負荷に対するシステムづくり～きれいな空気、きれいな水、きれいな大地
		(環境学習)：みんなで学ぼう環境のこと、共に育てよう思いやる心 (市民参加)：わたしたちのまち、わたしたちがつくる (地域の連携)：地域がつながり、助け合い、よりよい社会をつくる

(3) 千歳・苫小牧地方拠点都市地域基本計画（1993年）

21世紀の国際空港都市地域

苫小牧市を含む千歳・苫小牧圏を対象に、平成5年に千歳・苫小牧地方拠点都市地域基本計画が策定され、「21世紀の国際空港都市地域」のテーマのもと、苫小牧市の役割として以下に示すような各種施策が位置づけられています。

主要施策と概要		苫小牧市の役割
産業交流拠点機能	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的なビジネスパークの形成 ・研究開発機能、人材育成・教育研修機能の集積、ネットワークの形成 ・商流・物流拠点の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ○中心市街地地区における空き店舗対策などによる商店街の活性化 ○ウトナイ地区における土地区画整理事業による都市基盤整備
定住促進機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりと潤いのある居住環境整備 ・商業・アミューズメント機能の充実 ・保健・医療・福祉などの都市機能の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○中心市街地地区における市立総合病院の整備
国際交流拠点機能	<ul style="list-style-type: none"> ・個性的な北の国際交流拠点の形成 ・レクリエーション機能の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○青少年宿泊研修施設等の整備
情報・通信ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・情報・通信ネットワーク等の整備・拡充 	
交通ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・拠点地区および中核施設を相互に連結する交通網の形成 ・空港・港湾機能の整備、高規格道路などの道路交通基盤の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○苫小牧港の物流拠点機能の拡充 ○国際コンテナ基地の整備

(4) 苫小牧市中心市街地活性化基本計画（2001年）

いい人、いい街、ふれあい育むまちづくり

苫小牧市における中心市街地の衰退の進行を改善し、未来に適応するまちづくりの方向を定め、新しい時代に自信を持って引き継げる中心市街地を目指して、平成13年に苫小牧市中心市街地活性化基本計画が策定され、「いい人、いい街、ふれあい育むまちづくり」の基本理念のもと、以下に示す活性化の目標と方針が位置づけられています。

基本理念	活性化の目標		活性化の方針	プロジェクト・取組
いい人、いい街、ふれあい育むまちづくり	人が集まり賑わいのあるまち	商業等の活性化	・都市機能と連動した商業環境づくり ・商業集積のにぎわい向上 ・商店街の取り組み ・ソフト事業 ・空き店舗の活用	・空き地・空き店舗有効活用事業 ・商店街のコミュニティ形成事業 ・宅配サービス事業 ・バリアフリー化促進事業 ・生鮮市場の設置 ・ストリート市場促進事業 ・起業家支援事業
	地域の自慢を感じる仕掛け			
	市民の進めるまちづくり			
安全・安心の都心暮らし	安全・安心の都心暮らし	市街地の整備改善	・賑わいのある都市空間（商業空間）の創出	・産直市の開催 ・イベント事業 ・情報通信サービス事業 ・イルミネーション事業 ・まちづくり活動支援事業 ・パティオ事業 ・イベント広場（パティオ）整備事業
			・回遊性を高めるための環境整備	・駐車システム・駐車場整備事業 ・市道3・3・31王子通街路事業（緑の回廊づくり）
			・都心型住宅の建設、住環境整備の促進	・優良建築物等整備事業 ・特定優良賃貸住宅促進事業 ・高齢者向け優良賃貸住宅整備事業
やさしく整えられた都市基盤				

(5) 苫小牧圏都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（2004年）

①都市計画の目標

【基本的事項】

苫小牧圏都市計画区域について、将来の姿を展望しつつ、土地利用、都市施設等の決定方針を平成22年の姿として策定したものです。

範囲は、苫小牧市、白老町、早来町、厚真町の1市3町にわたる約84,373haの面積となっています。

【都市づくりの基本理念】

工業都市として発展を続ける苫小牧市を中心に、都市機能の調和と都市施設の整合を図りつつ、健全な発展と秩序ある整備を進め、快適な広域都市圏の形成に努めるものとしています。

苫小牧市は、海・陸・空の交通の要衝に位置し、道央圏の中核都市、各種産業が立地する工業都市として発展しており、今後さらに西部工業地帯の充実と、東部地域の多角的な開発と高度な技術を取り入れた多様な産業の振興を図るとともに、中心市街地の魅力づくりと個性的で魅力的な地域の形成、高齢者・障害者や子供たちにも快適な歩いて暮らせる地域の形成、豊かな自然をまちなかみに活かした地域の形成をまちづくりの基本方針として、理想の都市像である「人間環境都市」の創造を目指しています。

②区域区分の決定の有無及び区域区分を定める際の方針

市街化区域及び市街化調整区域の区域区分を定めています。区域区分によって、農林業との調和を図りながら、無秩序な市街化を抑制し、計画的な市街化を図っていくものとしています。

③主要な都市計画の決定の方針

【土地利用】

住宅地、商業地、業務地、流通業務地、工業地など主要用途の配置方針、市街地における建築物の密度の構成、住宅建設の方針、土地の高度利用、用途転換、居住環境の改善、都市の風致に関する方針、市街化調整区域の土地利用の方針等を定めています。

【都市施設の整備】

交通施設、下水道及び河川、その他都市施設の都市計画決定の方針等を定めています。

【市街地開発事業】

市街地再開発事業による土地の高度利用と機能集積、土地区画整理事業による計画的な市街地整備の促進、地区計画制度等の活用による計画的な土地利用の促進等の方針を定めています。

【自然的環境の整備又は保全】

環境保全系統、レクリエーション系統、防災系統、景観形成系統等主要な緑地の配置方針、及び整備目標等を定めています。

2. 市民意向の把握

2-1 将来のまちづくりに関するアンケート調査結果

(1) 調査の概要

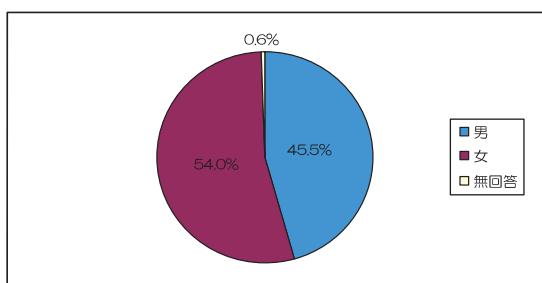
将来のより良いまちづくりの実現に向けて、土地利用のあり方、道路・公園・利便施設などの各種施設の配置方針、苦小牧らしいまちなみ形成などの方向を定めるためにアンケート調査を以下のように行いました。

- 配布数 : 2,000通 (15歳以上の苦小牧市民から無作為に抽出)
- 回収数 : 506通
- 回収率 : 25.3%
- 調査期間 : 平成13年9月1日～17日

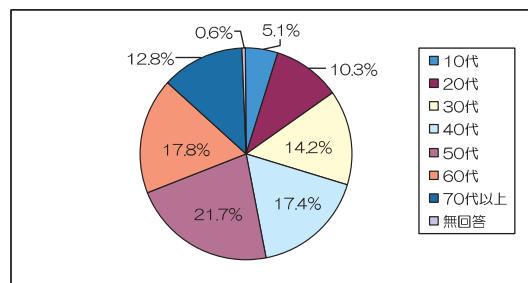
(2) 回答者の属性

回答者の属性は男女比、年齢構成ともおおむねバランスがとれています。

●性別



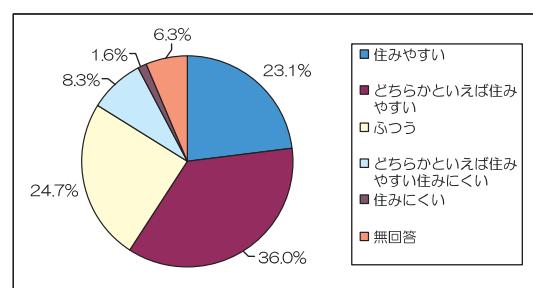
●年齢



(3) 調査結果

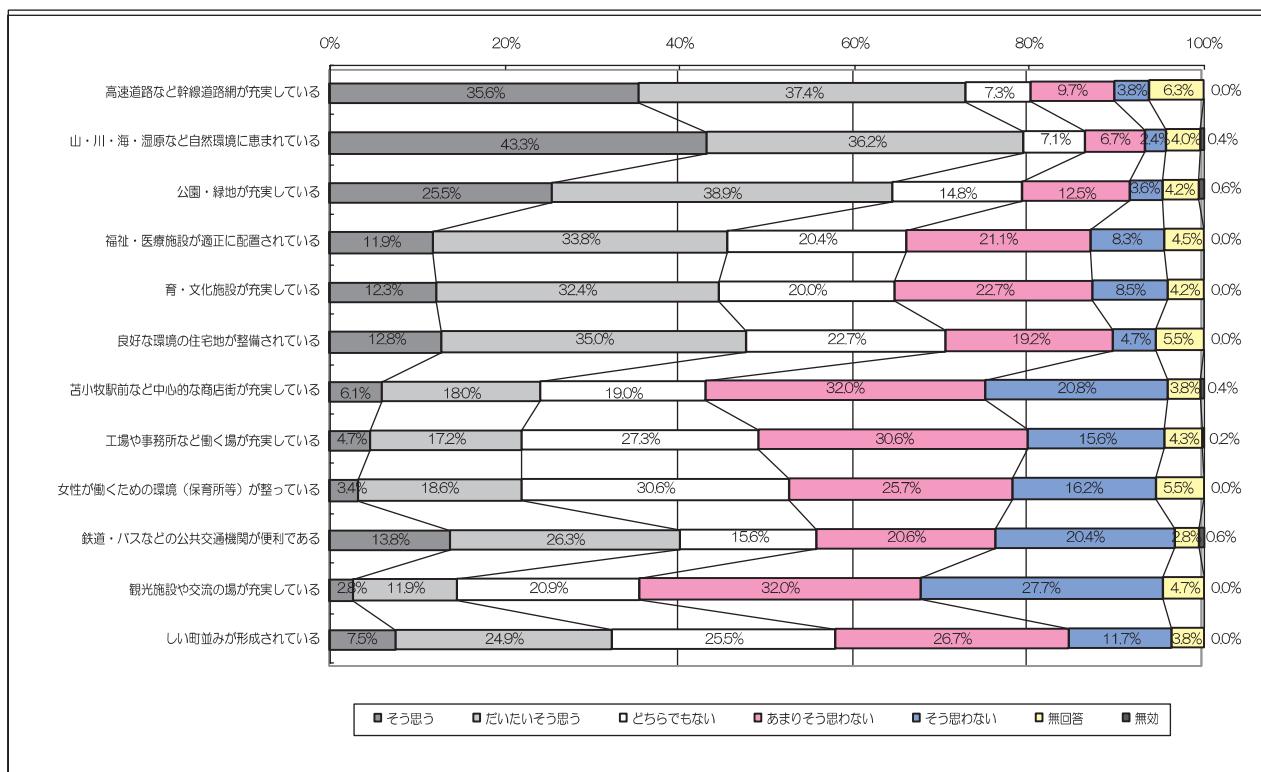
問一 1 苦小牧市の住みやすさについて

住みやすい、どちらかといえば住みやすいとする回答が多くなっています。



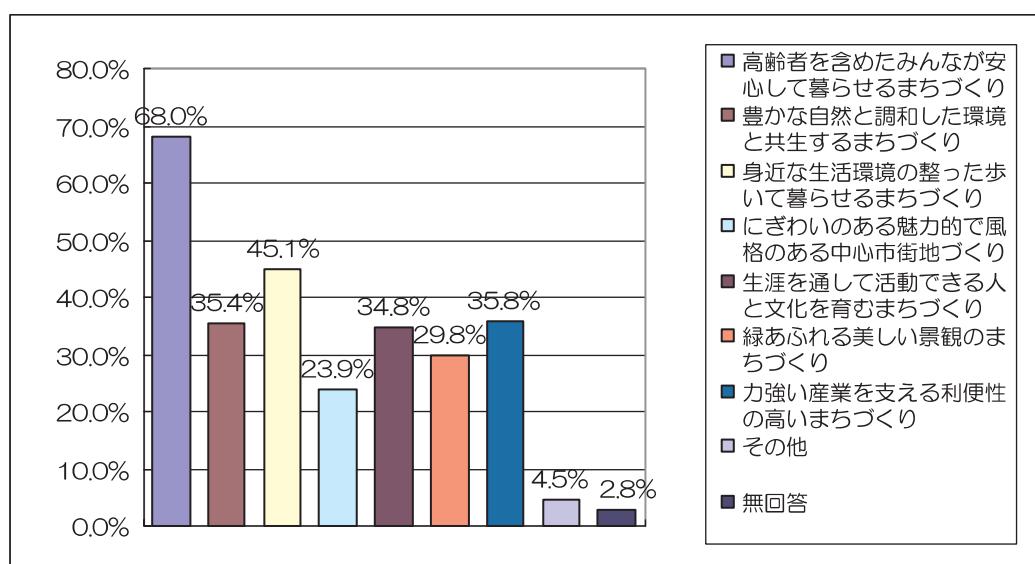
問一2 苫小牧市について感じていること

中心的な商店街の充実、働く場の充実、女性が働くための環境（保育所等）、観光施設や交流の場の充実などの項目の評価が低くなっています。



問一3 これからのまちづくりを考える上で重要なこと

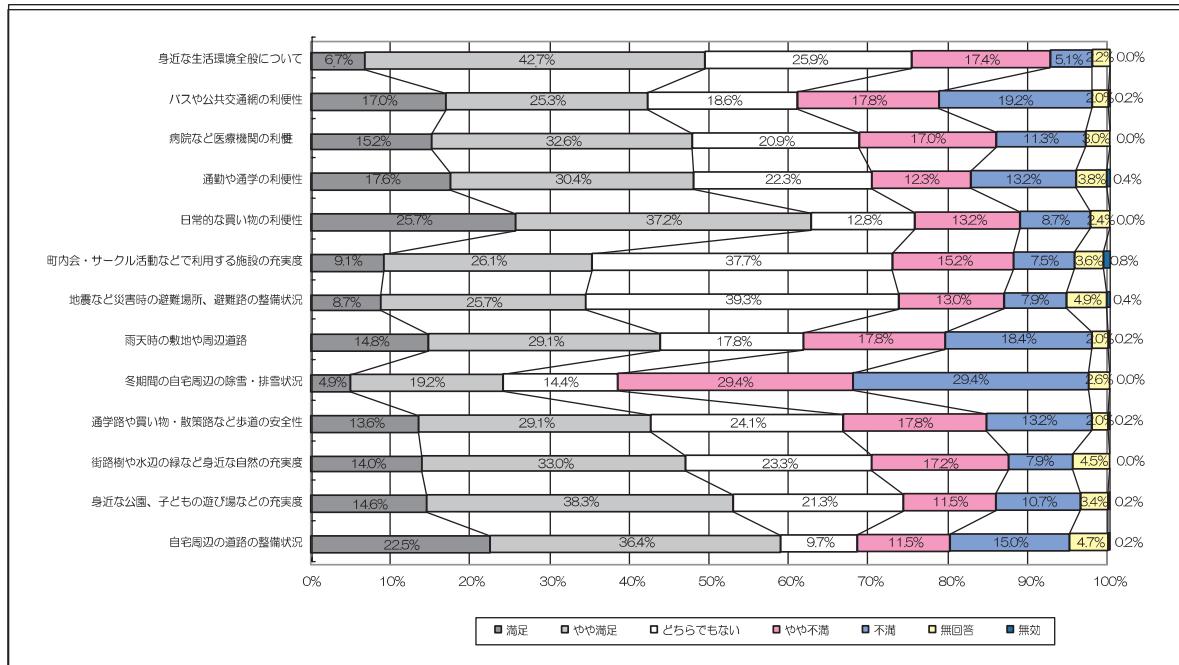
高齢者を含めたみんなが安心して暮らせるまちづくりを重要だとする人が7割と最も多く、次いで身近な生活環境の整った歩いて暮らせるまちづくりを約半数の方が重要だとしています。



問一 4 身近な地域の生活環境について

全般的に“やや”を含めて満足しているとする回答が多くなっています。

除雪・排雪に対する不満が多い他、身近な自然、歩道の安全性、排水状況、医療機関、公共交通網などの評価が分かれています。



問一 5 “お気に入りの場所”と“その理由”

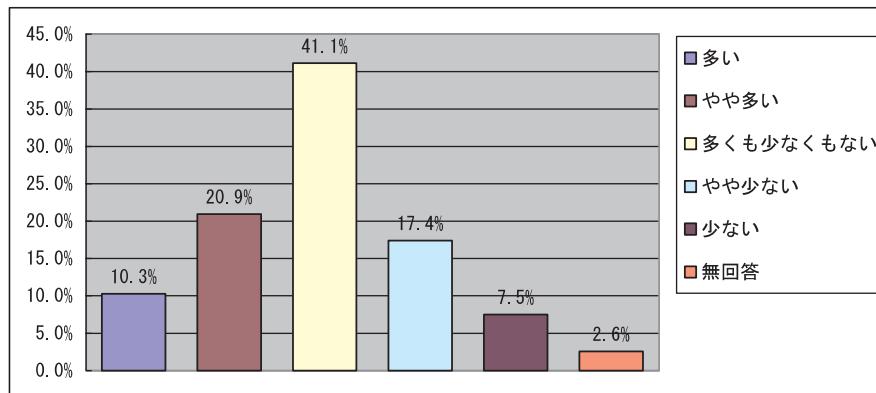
回答の名称ごとに数えると、下記の 10 カ所が票を集めました。金太郎池と緑ヶ丘公園をあわせると 129 票、市民文化公園・中央図書館・サンガーデンをあわせると 140 票となります。

身近な公園が人気を集める一方、ウトナイ湖や樽前山など苫小牧を代表する自然はあまり票を集めていません。

順位	場 所	人 数	主 な 理 由
1	金太郎の池	67	・自然にふれあいながら散歩、散策ができる ・バーベキューの設備、アスレチックがある ・緑が多く安らぐ
2	緑ヶ丘公園	62	・町を見渡せる展望台の眺めがよい ・スポーツ施設が充実している
3	市民文化公園	57	・図書館、博物館、サンガーデンに隣接している ・街中にあることを忘れる自然環境 ・春の桜が素晴らしい
4	アルテン	54	・美しく広々とした自然環境 ・食事もでき、温泉も入れる
5	市立中央図書館	49	・本を読みながらサンガーデンの花を楽しめる ・帰りに公園を散歩したりくつろぐことができる
6	サンガーデン	34	・文化的施設のそばで自然にふれあえる ・花を見ながら散歩できる
7	北大演習林	32	・樽前山の流水が流れ、自然豊か ・カルガモ、エゾリスを見ることができる
8	海・海岸	23	・きれいに整備された砂浜がよい(ふるさと海岸) ・景観のよい散歩コース(有明海岸)
9	木もれびの道	20	・木陰が多くウォーキングに最適 ・緑を楽しみながら散歩ができる
10	北星公園	19	・安全に水遊びができる ・遊具が充実している

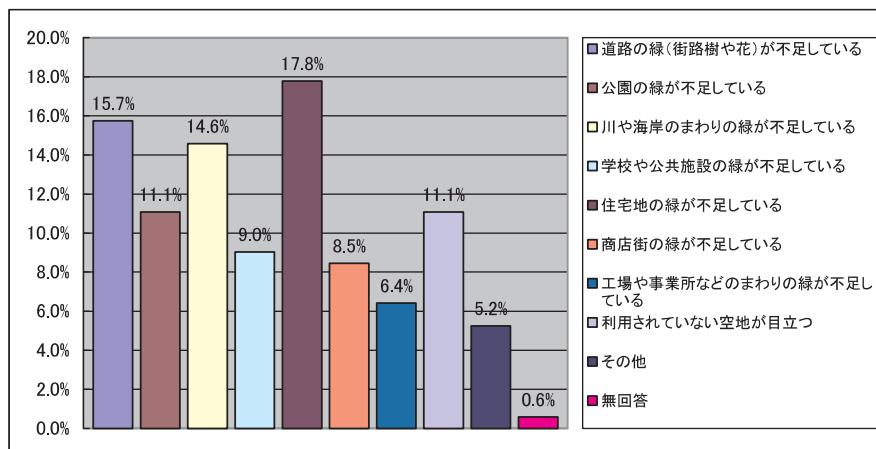
問一 6 緑の量

多くも少なくもないと考える人がいちばん多く、「多い」と「少ない」という回答がほぼ拮抗しています。緑の量の感じ方にはばらつきがあるといえるでしょう。



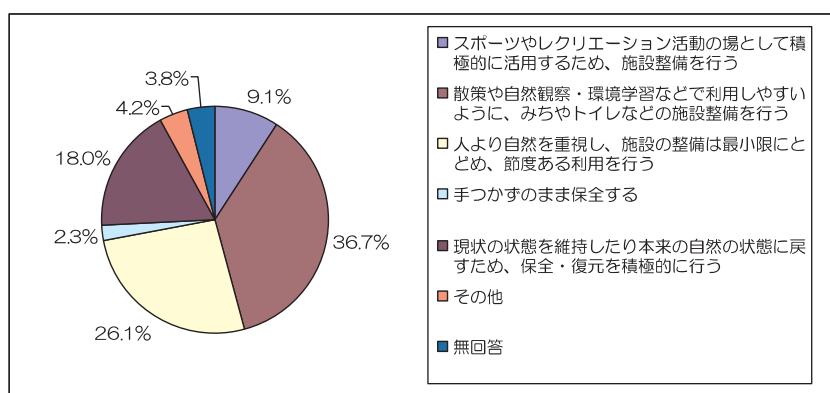
問一 7 緑の量が少ないと感じる理由

住宅地、道路、河川における緑が少ないと考えられているほか、利用されていない空地が目立つとの認識があります。



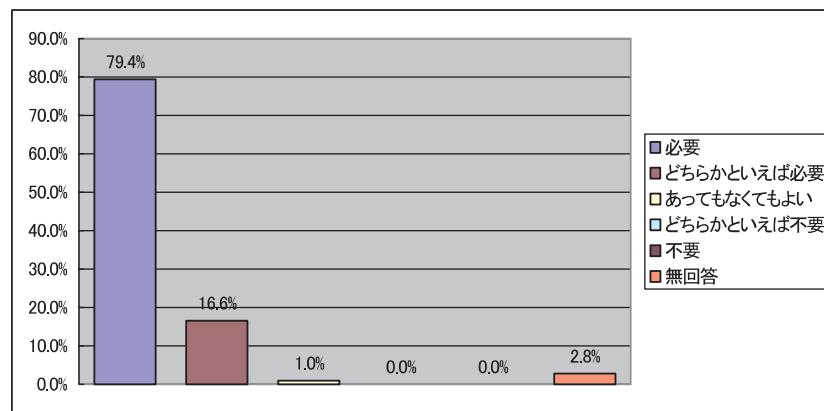
問一 8 山・川・海・湿原などの苦小牧市の自然環境はどうあるべきか

利用に関わる施設の充実を求める意見が多く、手つかずのまま保全を求める声はわずかであり、適切に人手を加えるべきとの認識がある。



問一 9 日常生活における緑の必要性

必要・どちらかといえば必要をあわせると 96%の方が必要性を認めています。

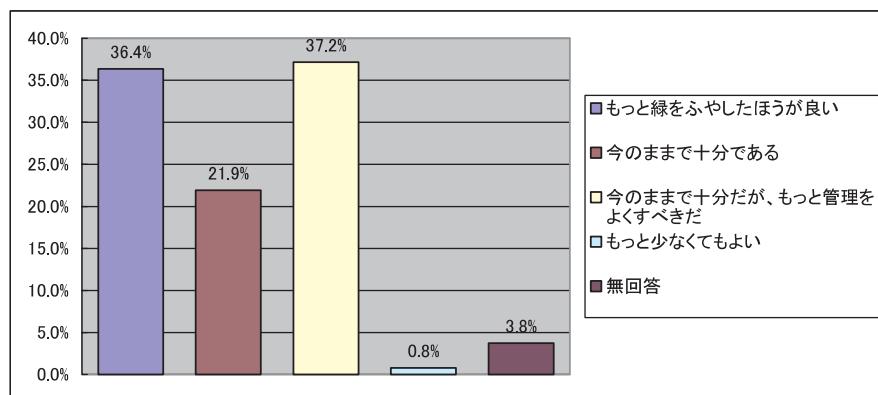


問一 10 苫小牧のまちに緑をふやす必要があるか

もっと緑をふやしたほうが良いと考える市民は 36%を数えます。

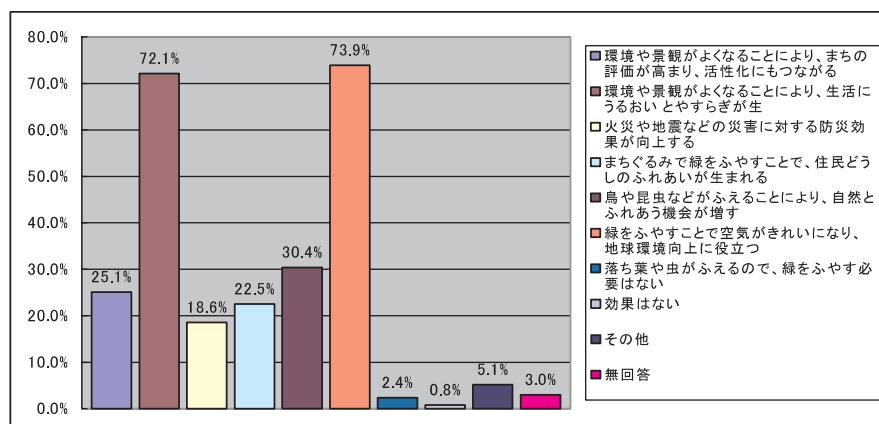
今まで十分であると考えている市民が 37%である半面、22%の人が管理をよくすべきと考えています。

量的な向上とともに質的な向上も求められていることがうかがえます。



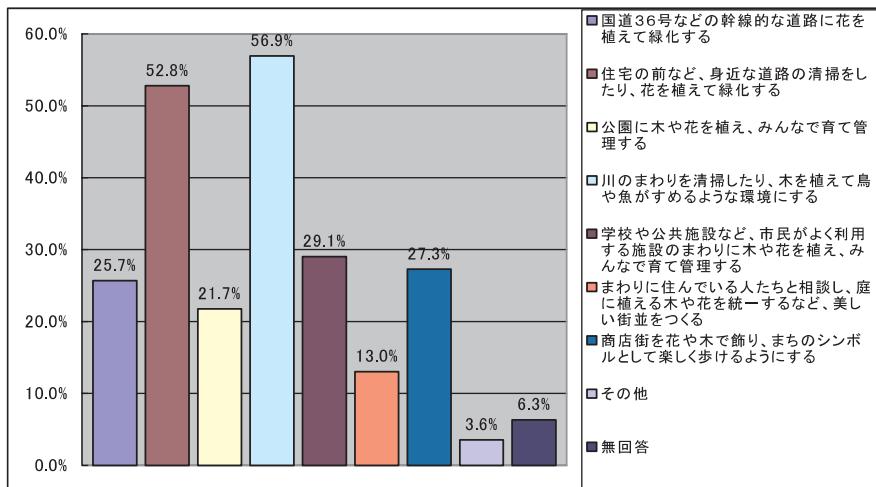
問一 11 苫小牧のまちに緑をふやすことの効果

70%を超える市民が、地域環境の向上と、それによる生活のうるおいへの効果を認めています。防災への効果や住民どうしのふれあいといった効果は比較的回答が少ないです。



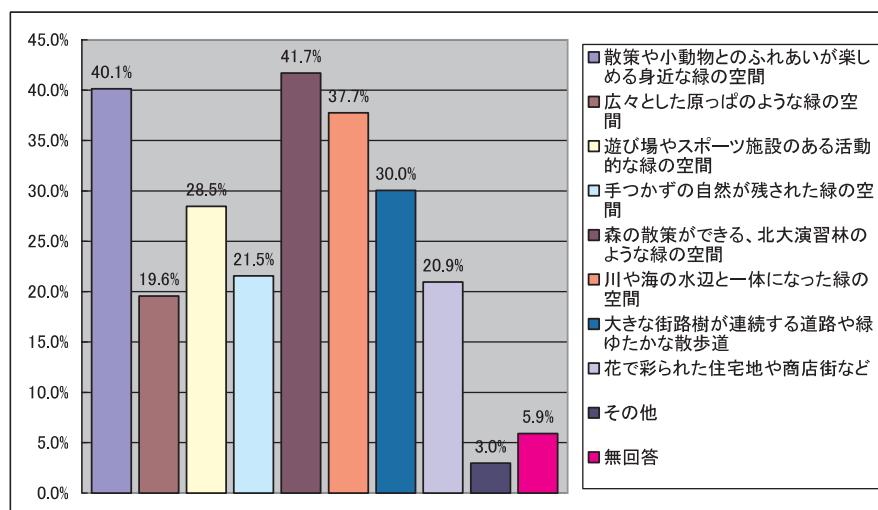
問一12 行政・企業との協力による市民緑化の可能性

河川の環境をよくすること、住宅の前など、身近な道路で花づくり・緑づくりを行なうことに関心が集まっています。



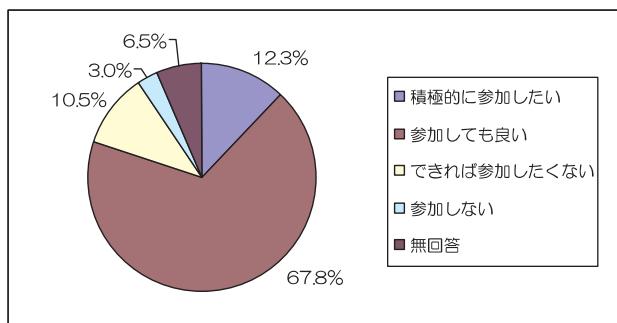
問一13 求められる緑の空間

水辺と一体となった緑の空間、原っぱのような空間など苦小牧の自然を活かしたものと、緑の中を散歩ができる道路など身近な空間の緑化の要望が多くなっています。



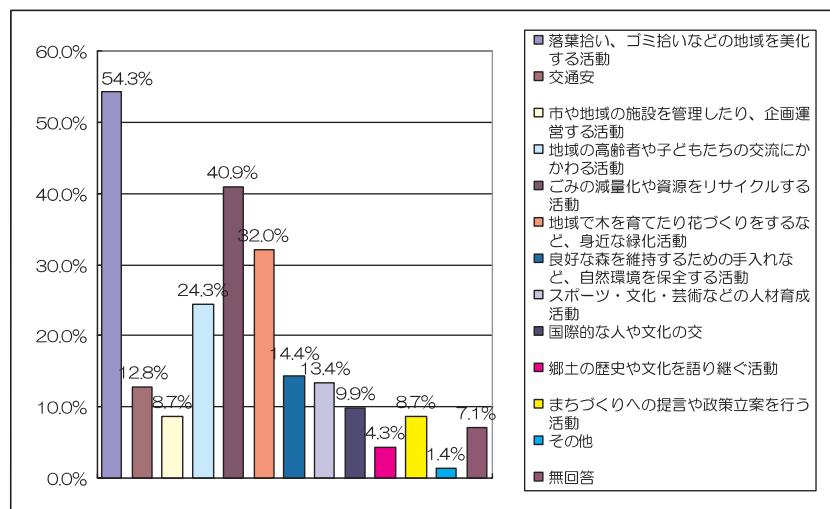
問一14 まちづくりへの参加について

参加しても良いという受身の回答も含めれば約8割の市民が、まちづくりに参加したいと答えています。積極的に参加したいとする答えも12.3%あることから、潜在的にかなりの数の市民がまちづくりへの参加意欲を持っていることが伺えます。



問ー15 参加、協力したい活動

ゴミ拾いなどの地域の美化活動へは過半数の人が参加・協力したいと答えている他、ごみの減量化や資源リサイクルの活動、身近な緑化活動、高齢者や子どもたちの交流にかかわる活動などに参加・協力したいとの意見が多くなっています。



(4) 自由意見

●将来のまちづくりに対する自由意見

分類	主な自由意見
身近な生活環境について	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが安心して安全に遊べる公園を 医療施設の充実を 教育・文化の充実を
生活道路、交通について	<ul style="list-style-type: none"> 街灯を増やして明るく 子供、高齢者、障害のある人でも安心して出かけられる道路に 利便性の高い公共交通を
地域の個性、中心性について	<ul style="list-style-type: none"> 駅前を充実させて活気のあるまちにする 子ども連れでも安心して歩ける魅力ある商店街に 市民が自由に購入できる市場を
産業、広域交通について	<ul style="list-style-type: none"> 働く場の確保を 幹線道路の渋滞解消を 高速道路のインター増設 新千歳空港へのアクセス向上
まちづくりの姿勢について	<ul style="list-style-type: none"> まちづくりに一人ひとりが参加、協力すること まちづくりは人づくりから 50年先、100年先のまちづくりのビジョンを

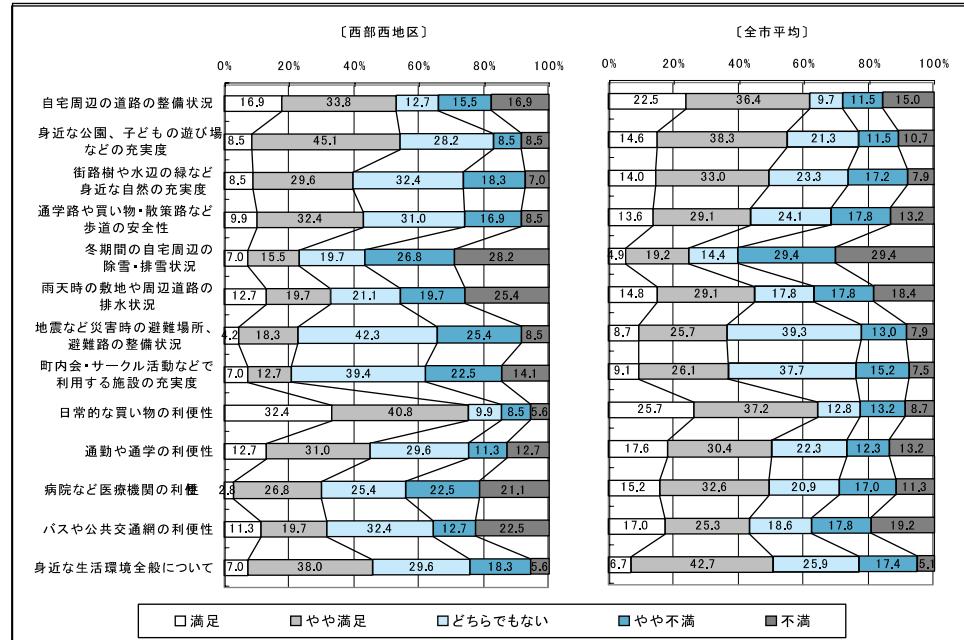
●緑に対する自由意見

分類	主な自由意見
公園などのレクリエーション空間について	<ul style="list-style-type: none"> 観光スポットにもなるような花と緑がいっぱいの公園をつくってほしい 桜を楽しめる（花見ができる）公園をつくってほしい 増やすよりも現在ある公園の維持管理をしっかりととしてほしい 小さな公園には高木をたくさん植えると暗くなるのでは少なくてよい 川のほとりを整備し花等を植えて市民の憩いの場所に 無料で楽しめるパークゴルフ場をつくってほしい
街路樹など、まちなかの緑について	<ul style="list-style-type: none"> 街路樹の管理を徹底する（落ち葉の清掃、下枝を払う等） 交通の妨げになるので道路沿いには木ではなく花を植える 街路樹の樹種の見直し 苦小牧の木をナナカマドからサクラに変えてはどうか 並木道をつくるべきだ 空き地の管理が悪く景観を損なっている 緑を増やしても冬の期間が長いので意味がないのでは 工場周辺の緑化に力を 駅前にシンボルツリーを（冬は派手なイルミネーションで装飾する） 緑が多いと管理が大変だ 昔に比べて随分緑が育った 公園や緑が多いまちだと思う
郊外の自然（山、湖、海など）について	<ul style="list-style-type: none"> 緑ヶ丘公園から支笏湖の間を桜並木にしてはどうか ウトナイ湖周辺を潤いと安らぎを与える環境・景観に 海周辺は緑が少なくさみしい 海の利用施設（釣り・レジャー等）を充実させる 北大演習林をもっと活用すべきだ
緑の効用について	<ul style="list-style-type: none"> 水源涵養林及び林道周辺の雑木林の植生の保全 自然環境を保護しながら公園や緑地を整備すべき 宅地整備のために緑を破壊し過ぎているのでは 汚染された空気では緑が育たない 力を入れて整備すべき場所とそうでない場所を検討すべき

(5) 地域別の意見

①西部西地域の意見

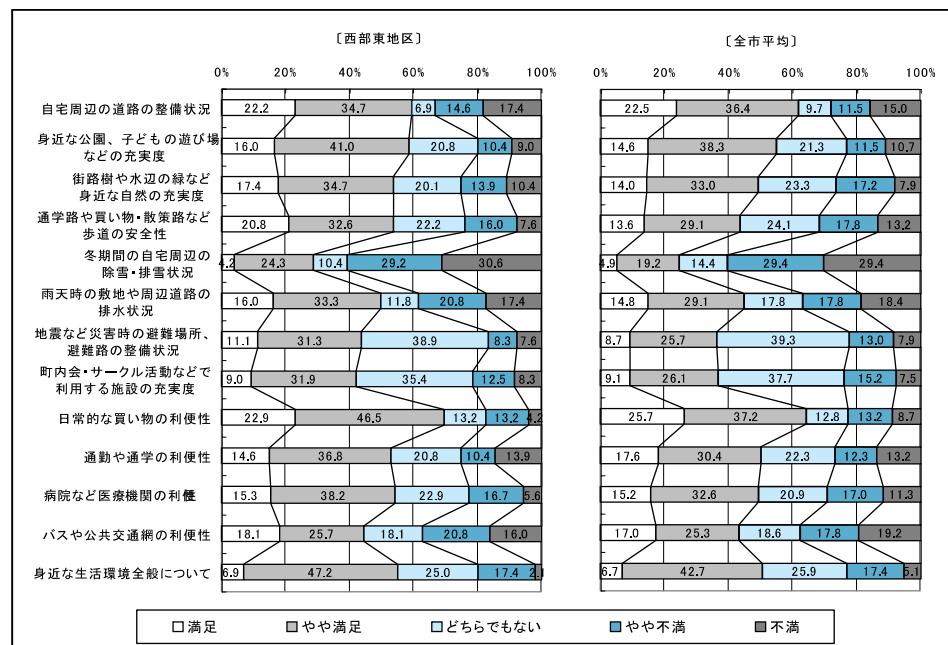
日常的な買物の利便性、身近な公園、道路の整備状況などの満足度が高くなっています。一方で、冬の除排雪、雨天時の道路の排水状況の不満が高い他、町内会などで利用する施設の充実、医療機関の利便性などについて、不満が全市平均と比べて高くなっています。



西部西地域の身近な地域の生活環境の評価（全般の満足度：不満度=45：24）

②西部東地域の意見

日常的な買物の利便性、道路の整備状況、身近な公園などの満足度が高くなっています。一方で、全市的な傾向と同様に冬の除排雪などの不満が高くなっています。

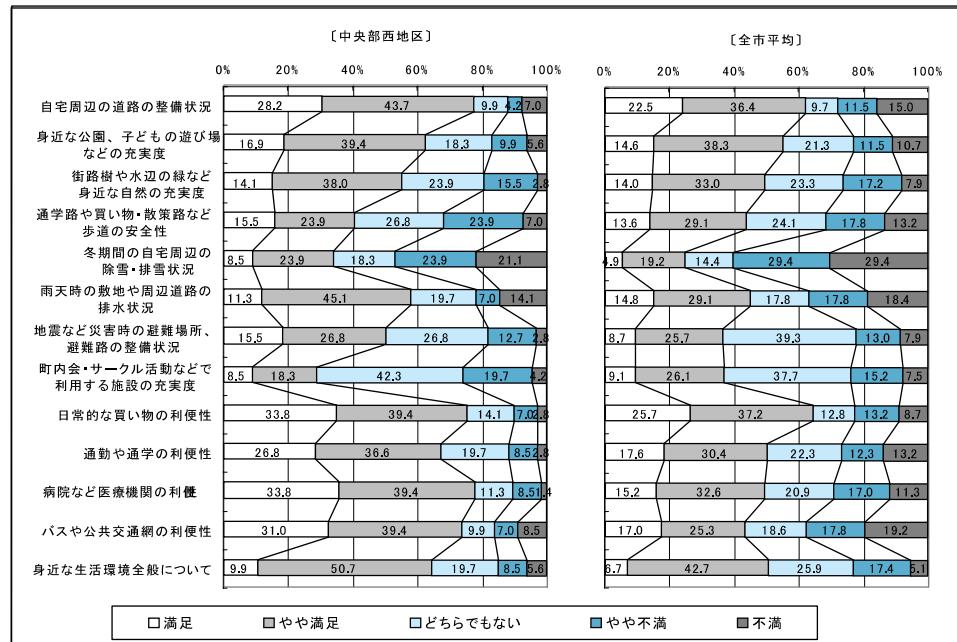


西部東地域の身近な地域の生活環境の評価（全般の満足度：不満度=54：20）

③中央部西地域の意見

道路の整備状況、医療機関、公共交通、日常的な買物、通勤・通学の利便性など生活環境全般に対して満足度が高くなっています。

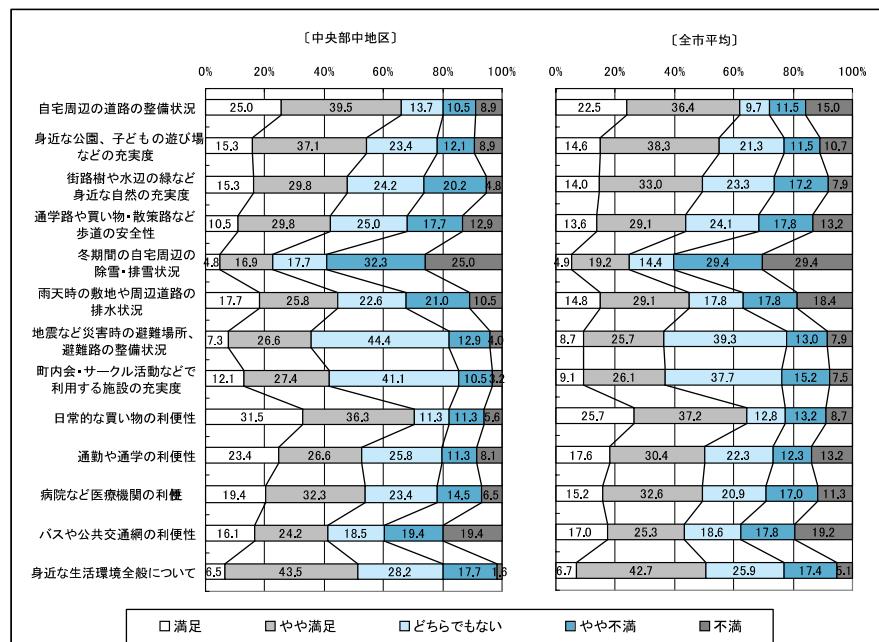
一方で、冬の除排雪などの不満が高くなっていますが、全市的な傾向よりも低くなっています。



中央部西地域の身近な地域の生活環境の評価（全般の満足度：不満度=61:14）

④中央部中地域の意見

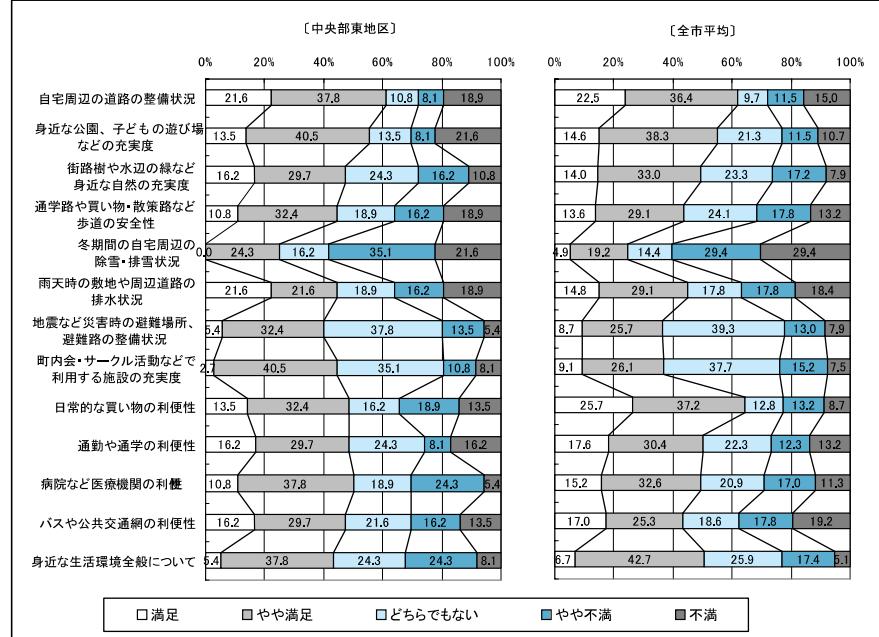
日常的な買物の利便性、道路の整備状況などの満足度が高くなっています。
一方で、全市的な傾向と同様に冬の除排雪などの不満が高くなっています。



中央部中地域の身近な地域の生活環境の評価（全般の満足度：不満度=49:19）

⑤中央部東地域の意見

道路の整備状況、身近な公園などの満足度が高くなっていますが、全市的な傾向と比べて日常的な買物の利便性の満足度がそれほど高くないなど、生活環境全般の満足度が相対的に低くなっています。全市的な傾向と同様に冬の除排雪などの不満が高くなっています。

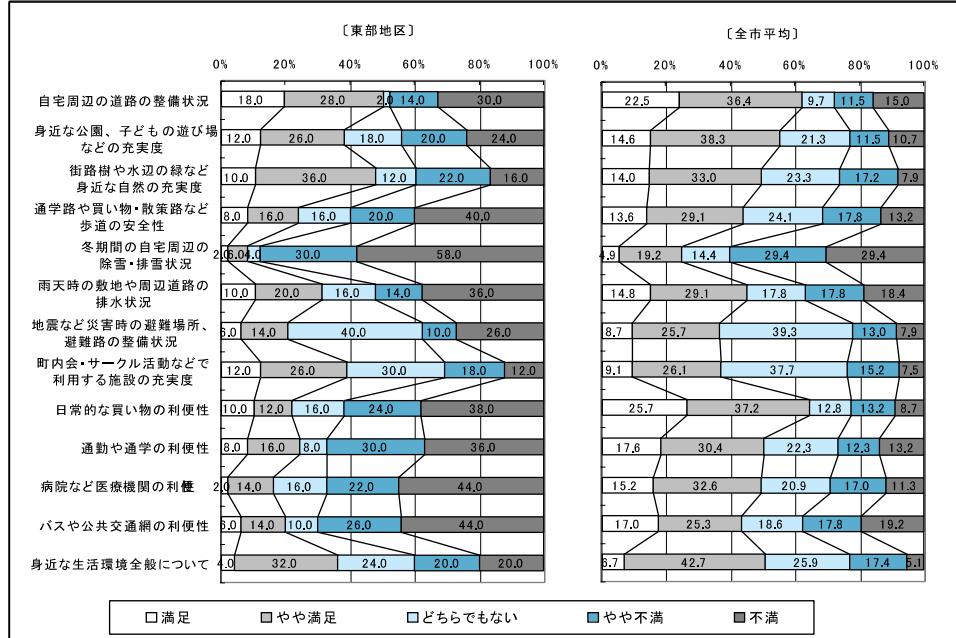


中央部東地域の身近な地域の生活環境の評価（全般の満足度：不満度=43：32）

⑥東部地域の意見

道路の整備状況、身近な自然の充実度などの満足度が高くなっていますが、全市的な傾向よりも低くなっています。

冬の除排雪をはじめ、医療機関、公共交通、日常的な買物、通勤・通学の利便性など生活環境全般に対して不満が高くなっています（満足より不満が上回っている唯一の地区です）。



東部地域の身近な地域の生活環境の評価（全般の満足度：不満度=36：40）

2-2 まちづくり懇談会の結果

市民意見を都市計画マスターPLANの策定に反映させる方法の一つとして、広報などで呼びかけて登録していただいた60名の市民メンバーによる「まちづくり懇談会」を開催し、まちづくりの課題や方向性について議論を行いました。

まちづくり懇談会では、6~8名のグループに分けて、ワークショップ形式で議論することにより、参加者の多様な意見の抽出を図るとともに、グループ発表を行うことで共通認識づくりをめざしました。

●まちづくり懇談会参加者名簿

浅野 圓	鎌田 雅邦	庄司 邦雄	早川 美津子
安高 浩子	河内 一訓	鈴木 愛一郎	伴 實
荒谷 彩香	菅野 東	清野 始	古部 のどか
飯田 啓也	菊地 綾子	立谷 菲筈	星 浩一
飯田 茂	木村 碩明	谷岡 裕司	三上 熱
石田 英人	源九 真紀	田森 愛美	三上 輪紀
石橋 則保	高坂 よし子	伴辺 久子	水越 千枝
伊藤 久美子	五艘 洋司	豊田 道義	宮越 博
伊藤 優子	紺谷 博樹	長岡 茂	室野 和行
井上 哲	齋木 実	長木 けい	山田 春美
岩村 美津枝	境 悅子	中公 竹義	山本 達也
大石 和美	佐藤 孝司	仲田 俊三	横井 春雄
大滝 健次	佐藤 紳	中村 憲郎	吉迫 勝意
片山 秀子	佐藤 宣義	中村 友	
金田 正弘	佐藤 满久	橋本 智子	
鎌田 金市	渋谷 勉	長谷川 智	

(1) 第1回まちづくり懇談会の開催結果

①まちづくり懇談会の開催経緯

- 開催日：平成13年10月19日(金)
- 時間：午後6時30分から午後9時
- 場所：苫小牧市役所9F会議室
- 参加者：市民35名
- タイトル：まちの未来をともに語ろう
- ねらい：苫小牧市のよいところ・見なおすべきところについて意見交換してもらうことで、今後のまちづくりに役立てていく情報を整理すること。参加者と行政の議論により共通の課題認識づくりを図ること。

②ワークショップ・プログラム

- 都市計画マスターPLAN&緑の基本計画の説明
- 話題提供（アンケート調査結果等）
- グループディスカッション
 - ・進め方とルールの説明
 - ・自己紹介
 - ・苫小牧市の地域資源と課題についての議論
- グループ発表
- 投票

③ワークショップの結果

■緑グループ（まちづくりは人づくり！）の意見その1

分野	意見
交通網の形成	舗装道路の車幅陥没《地盤軟弱の上に大型車両の通行》 車道・歩道の排水の悪さ《土盤・排水口 etc の整備遅れ》 交通の利便性がよい 交通の利便性が高い。海・陸・空 札幌が近い 交通の便が悪い。便数が少ない JR 横断陸橋の歩道部分の不備《歩道部分が狭い・無い》 平らな道。どこまでも自転車で行くことができる
産業の育成・支援	ホッキ員日本一 公共教育機関（職訓を含む）の夜間開講が無い《老人・社会人を対象としたリカレント教育》《第2の職場のための受講設備不足》 リカレント教育の場所の不足、及び受け入れ態勢の不備《夜間高校・大学の開講がない》 近隣町村との交流、連携-産地直送- おいしい飲食店がない。専門店が少ない 日本一のホッキをあまりPRしていない 夜遅くまでお茶する（できる）場所がない。ゆっくりと語らいができる空間 女性の働く場所が少ない。賃金も安い 青少年の他管内流出が多い

■緑グループ（まちづくりは人づくり！）の意見その2

分野	意見
緑豊かなまち	温泉ユノミノ湯の地域は緑が多く観光として活用。もっと総合的施設づくり 水・土・空気・山・川・森・緑・湖沼・湿原・空どれをとりあげても自然の魅力がいっぱい 主峰樽前山がまちのシンボル 遊歩道がある。安心して楽しむことができる 公園が多い。地域にたくさんある（すみかわ地区） 北海道大学演習林の環境がすばらしい。市民が入ることができるのが良い 各道路側に緑が多くとても良い 緑が多く5分で楽しめる
高齢者にやさしいまち	道路の中心部に下水のふたがあり、車がユレル。病人に高齢者に悪い 公衆トイレ他の設置がメイン。目に付く場所に少ない 高齢者、人材登用のしくみ
まちの中心づくり	一次産業の育成不足。将来に向けて一次産業育成に力を入れる 観光名所が多数存在するが、観光客の誘致が下手 市を2分割している感のある王子工場の苫東地区への移転 駅舎、ダイエーなど大型店進出と住民の関わり 自分の住んでいるまち（苫小牧）を愛していない
まちづくりの仕組み	近隣町村との連携・交流が希薄。運動会、文化祭、文化、その他産業直送 公共施設が単一機能だけであり、複合的な連関が良い 住民同志のコミュニティがない。盛り上がりがない 学校の開放。子供達に 観光開発が遅れていること 各種市民活動を行う場所が少ない。特に夜使える施設がない 住民参加の機会が未だに少ない→ 施設づくり・空間づくり・組織づくり・活動への参加- まちづくりのアクションプログラムがない
快適な生活環境づくり	大型車両排気カットの規制《樹木・人間への悪影響》 子供が地域で遊べる機関がない 豊でおいしい水道水 一通り揃っているきれいな街 雪が少ない。除雪の苦労が少ない 公共施設に自然や生活空間を取り入れた余裕、ゆとりが感じられない→ 学校・病院・市役所・文化会館・町内会館など- 子供を指導してくれる人が少ない（遊び・スポーツ） 気管支炎・小児喘息の患者数が北海道1である《王子の工場排煙が原因では？》調査が必要 教育や家庭生活の機能が変化・低下している 清水町のアパートのベランダの手摺りに洗濯物を干す時に工場煤煙で真黒になる《室内も同じ》 公園の機能、役割を再検討。施設の見直しをみんなで考える 市住民や出身者が郷土愛・郷土感を共有する街としてのインパクトが弱い→ 親しみ・懐かしさ・魅力・個性・特性- 海釣りは北海道でも有数 秋晴れの日が多くて気持ちがいい。外で体を動かしたくなる

■オレンジグループの意見

分野	意見
快適な生活環境づくり	人口は増えている 人情薄し 道徳心必要 文化施設の利用がしづらい面がある スポーツ施設は充実している 水がおいしい 買い物は札幌へ 札幌に近い
市民活動	町内会活動が活発である ボランティア活動をしている方が多い（ような気がする） 文化的な活動、ボランティア活動をしている方が多いけれど、横のつながりが希薄かも？
自然とのふれあい	海・川と親しめない
気候	8月の平均気温18°Cで「軽井沢」と同じ。雪少ない→暮らしやすい
郊外の自然	緑が多い 公園が多い 花畠がない（花が育たない） 街路樹が美しい 樽前山がきれい ウトナイ湖等の自然が豊である 活火山がある 海がありロマンチック 国道は緑少ない バイパス街路樹がきれい こもれびの道もとと延長
まちの緑	公園で子供が遊んでいる 中心地付近にいこいの場がない
産業の育成・支援	産業は東側地域を中心に発展している。更に苦東に企業がくれば 王子の工場が中心街にある
高齢者にやさしいまち	公共施設のバリアフリー化 公共施設がまとまっていない 路面が凍って危ない
まちづくりの仕組み	情報の一元化（ができるといいなー） 必要な情報が手に入りづらい。どこで何を入手して良いのかわかりづらい 生活に必要な施設がたくさんあるけど
東西にながいまち	まちが細長く不便 中心地が淋しい まちの形成が東西に伸び、交通機関の充実 観光施設が少ない 中心街の空洞化→活性化 街の中心に核（シンボル）になる緑、緑地帯（公園 etc）が望まれる 苫小牧は王子製紙を中心とした町である。昔の住宅（ブロック）地を再開発を地元経済界の力が弱い→地ビールもなし
交通網の形成	車での移動がらく 車が優先する道路でなく歩行者を第一にした道路づくりを 市バスの経路がわかりづらい 北海道の交通（陸・海・空）の要衝→結接点 基幹道路の充実を考えてほしい・・・海岸線につくるなど エアポートを苫小牧まで 空港が近い 北海道の玄関である港・空港・JR・高速道路、重要な地域

■ピンクグループの意見

分野	意見
まちの中心づくり	イベントが少ない 中心地に空き地が多い 中心市街地の活性化 住宅地域が広いだけで密度がない 中心街が淋しい 映画館が少ない
快適な生活環境づくり	公共施設が立派である。完備している 公園が多い 苦小牧川の“こいのぼり”は楽しみです 除雪が下手 海岸の整備がよくない 公園のトイレの周りのにおいはいやな感じ ウトナイ湖の豊かな自然 ウトナイ湖を生かしていない
産業の育成・支援	街の中に大きすぎる工場がある おいしい食べ物を育てて広める 大学が一つしかない 観光地がない 観光地が少ない アルテンが良い
高齢者にやさしいまち	中心街に近い所にマンションが建つと、高齢者の方も便利ではないか
緑豊かなまち	街路樹が育ってきた こもれびの道。もっと延長されればいいのに 緑が豊かである（街路樹） 緑地が多い 比較的緑が多く感じる 樽前山の姿はとても美しい 公園等の管理
交通網の形成	道内、道外への交通の便が良い。空港・フェリーが近くにある 交通のアクセス（広い意味で）が良い 空港・港・高速道路等に近く、非常に便利である 交通の便が悪い 公共交通機関、空港、市内 北星の道等に敷いてあるレンガは車いすとかベビーカーにとって振動が激しい 朝の交通ラッシュ 街が東西南北に分断され、アクセスが悪い 36号沿いの街並みがゴミゴミしている バスが大きい。もう少し小さくして（自転車を乗せて欲しい） 国道36号西側に街路樹が少ない
まちづくりの仕組み	住宅地が広がりすぎて不便をしているのではないか 人の環境が悪い（人の出入りが多い。業種が悪い？） 千歳に負けています！

■赤グループ（そなえあれば色気あり）の意見その1

分野	意見
自然・緑	<p>高丘森林公園近くにあって自然のまま "公園整備。公園の数が多い。 高齢者、子供の憩いの場、遊びの場" バイパス、木もれ日の道散歩などに良い 豊かな森林がある（樽前山系） 豊かな自然・森林 水が美味しい。もっと PR しても 豊富で美味しい水がある ウトナイ湖。あまり意識していないけどなくなったらものすごく悲しいと思う 苦小牧の原風景が残っている（苦東の原野） ミネラルの富んだおいしい水の流れる河川がいくつもある 湖沼が多い。よく知られていないすてきなところあり 海が豊かで海産物に恵まれている 大型ほ乳動物（熊・鹿）が移動できる（している） 渡り鳥の中継地ウトナイ湖がある 豊かな命を育んでいる湿原が多くある まちのすぐ近くに海も山も原野もある。東西に長く南北に短い 北国（亜寒帯）として、きわめて多様な自然環境が苦小牧周辺に集まっている 豊かな森林・海・沼・湖に恵まれた町 ウトナイ・サンクチュリアをもう少し楽しめる様にしては？</p>
産業・観光	<p>千歳空港、港、高速道路と恵まれているのにただ素通りの街になっている。素通りにならないよう何かを 失業者が多く高齢者が就職出来ない。なぜ？ 観光地が少ない。素通り 苦東開発の考え方。いまだに3万人だか6万人も住まわそうと夢もってたから 森が豊かで地域自給できそう。林業と農・漁まで 勇払原野という平野は工業など将来性が大きい 海にはホッキ、ホタテなど水産資源が豊富 海産物の豊かな町 土地が豊かで（厚真、早来まで含め）農産物に恵まれている 大切にすべき所土地・千歳空港・港・高速道路と交通に良い</p>
交通	<p>"松風の道路、歩道をもう少し広くしてほしい。有珠の沢の人たちも多く利用し 歩道は恐い。車道は中心線はみ出し" 冬の道路の除雪が下手 生活道路の改善。普通の用地道路は行き止りが多く困る 国道、バイパス等、主要道路は広くてよし</p>
生活環境	<p>大型店が多くすごく便利だ コミュニティ道路の夜。しあんとした木々が美しい 町内に公園が多く良い 冬、雪が少ない 夏すずしくていい バイパスのグリーンベルト（外の街に誇れるくらい緑が立派と思う） 大型店舗が多く個人のお店にもっと魅力のある店づくりをしてほしい 従来のお店、地元のお店がつぶれている 近年、車からのポイ捨てが多い 霧が出やすい。とくに夏は気温が上がらない 河川の親水化。市民が親しめる環境になっていない 集合住宅のゴミステーション。他の人の目を感じていない 下水道の流れが悪い。大雨の時トイレが使えない</p>
まちのバリアフリー	<p>スポーツ施設以上に、高齢者向けの施設を作る 高齢者向けの遊べる広場やタマリ場を作る。町の中心地だけでなく バリアフリー化が必要。駅ホームの昇降。店舗の出入り 市内の道路を車イスで歩けるようバリアフリー化にする 歩道がせまく、段差がある</p>

■赤グループ（そなえあれば色気あり）の意見その2

分野	意見
市民参加のまち	"市民が何を望んでいるか考えないで、経済界ばかりみる行政。 だれのための市役所だ。" 小さな声をひろう。姿勢が弱く、不足 最近個人病院等での花づくりが盛んで（プランターなど）心がなごむ
財政を活かし色氣のあるまち	将来予想される食糧危機や経済危機に対して無防備 世界初、東北以北1位の港湾がある まちのシンボルがある。樽前山、王子製紙→スケート 王子製紙が街の中心的役割を荷なってきた 区画整理が進んでいて、道路が広くまっすぐ整備されている 港が街にとってあまり感じられない 中心市街地のすいたい。空き店舗。人通りが少ない 中心街を散策（ウインドーショッピング）など楽しめる街並みではない "樽前火山をふまたえた街づくりを、そして市民がいざという時きちんと安心できる 街づくりを・・・" 直線道路ばかりでは街の情緒が少ない
人材を活かしたつながりの可能性	魅力的な方々。人材がたくさんいらっしゃる まちの中に地道でしっかりと地元の仕事をしている人が残っている "過去から未来へ手渡し続けてゆける「価値観」（伝統）や「生きる知恵」が とても少なく弱い" 自分（のまち）中心の考え方方が大勢。ほとんど "同じ考え方の人同志のせまいコミュニケーションがほとんどで、多様な考え方の人 同志の交流が少ない" 世界と自分の関係がよくわからないで暮らしている 自然と自分の関係がよくわからないで暮らしている "なんでも行政にやらせようとする市民がいること。 人もふやしたくないしょ。金ももうかけたくないしょ。"

■青グループの意見

分野	意見
生活サービスにかけたよりがある	除雪 大雨による洪水 "住んでいてとても気持ちの良い場所だが、病院、銀行、商店などが遠く不便（私の住んでいる錦岡の他、別の地域も含む）" 古い街並は暗いイメージが多いので、道路外灯などでアクセントをつけてみたら車のない人は暮らしにくい 道路に死角（見えない部分）が多い 沼ノ端地区では買い物ができない、地域の中で暮らしやすさに偏りがある
生活の暮らしやすさ	高齢者専用の住宅整備 公営住宅の戸数が多い 住み良い地域と思う（気温などで） 平坦なまちでどこでも自転車で移動できる 港周辺の公園整備 転勤者の人もすぐに行けめるところ 歩いて生活するのにも便利な地域（日新町）（生活基盤が整っている） こもれびの道、歩く楽しさがある。通学路に応用したらもっと良い
まちの顔づくり	中心市街地の形成 王子の赤レンガ（歴史的建造物） マイナーな市 中心部に人が歩いていない 若者が楽しめるまちに "市内それぞれに顔があるまちづくり。（高齢化対策も考慮） ※各地域に顔シンボルとなる公園を（中心市街地には買い物公園）" "中心街の利便性を生かし、高齢者に対応した住居整備をしてはどうか（定住者が増えると街も活性化するのでは）"
自然を生かした交流とふれあいの場づくり	"さつぱつとして暗い工業地帯の風景。緑をふやしたり、既にある自然を生かして "えっこが工業地帯？！" というような地域に" 地元でアウトドアが楽しめる 自然を生かした交流の場づくりを、自然を生かした利用、整備を 公園が少ない "川とふれあう空間が少ない (苫小牧西部河川の上流は日本でベスト10に入るほどきれい) " 貴重な自然が残されているが、開発、保全の色分けが明確になってない 緑は多いが華やかさにかけるような気がする。（花が少ない）
自然環境の豊かさ	金太郎の池 ゆったりした公園。広い面積 "工業地帯のイメージが強いが、他にはこれる自然がいっぱいある。 (多くの方はそのことを知らない（苫東地域）)" ふる里海岸 弁天沼、北大演習林、樽前ガロー、錦大沼、トキサタマップ湿原、ウトナイ湖 自然が結構多い（特に緑） 勇払の浜（砂浜）
地域の資源を生かした産業振興	メジャー企業の資本があまり入ってない 地場産業の育成をもっと進めるべき 発展の要としての人造港と歴史 産業がさかんできかなが美味しい
海・空・陸の立地を生かす交通体系整備	交通アクセス（海・空・陸）の要地で便利 道路が広い 幹線道路の整備 渋滞をしているものの幹線道路を新設せずに渋滞を解消できないか 中央インターがあれば交通もスムーズ。地方→中央→地方への活性化する

■黄色グループの意見その1

分野	意見
手つかずの自然	周辺の豊富な森林 水が美味しい 山には緑が多い 手つかずの自然が残っている 水産資源に恵まれている 防災の視点が生かされていない（樽前山のハザードマップ等）
緑はあるけど遠い？	山の眺めがきれい 文化公園、図書館など年齢を問わずに楽しめる場所になっている ウトナイ湖などの世界に誇れる自然がある 緑ヶ丘公園周辺は静かに憩えてみんなで楽しめる場となっている 公園や緑に車でないと行けない
育てる芽	緑が育ってきている 花園町内での花を植えている。町中という感じでとてもうるおう 木もれびの道はすばらしい バイパスの街路樹は豊富 緑は豊かであるが、町中に特徴ある緑がない 中心部の緑（花も）の整備が悪い 街区公園が画一的（地域住民に開放しては） 国道は街路樹が少ない
静かな住宅地	静かな住宅地が多い 広い宅地 ゴミのポイ捨てが多い ゴミステーションを区画整理などにあわせて計画的に配置して
良い面を意識して	自然の恩恵を身近に感じる人が少ない 良い面を良いと認識されていない 不満を口にする人が多すぎる（求めるばかり） 市内だけで多くのものを求めすぎる。わがまま 何でもありすぎてまちの柱が見えてない（例えば自然） 転入者が感じる不便さや不満を聞かされて、地元の者が誇りを持てない 地元保守派と新規転入者との意識のギャップ 環境をキーワードにした都市計画が出来ていない
環境産業を	リサイクル産業の企業が多くなっている 環境産業が育っていない 中小企業の育成、支援が足りない
海辺を生かそう	河川、海岸などに親水空間少ない 海辺をもっと楽しく憩えるものに整備しては 海岸などの利用者のマナーが悪い 海の景色がきれい
人づくり	やることとやらないことを整理する タウンボランティア（まちづくりに走りまわれる人、観光案内もできる人など）を組織化する
施設はあるけどもっと利用を	公共施設が整っている 他市町村と協力した施設利用が少ない 複合施設が少ない
具体的な動きから…	体を使って動くことが大切 市民会議は増加しているが実行部分が見えていない 地域における施設、公園などは住民で企画、参加すべき 実験的な取り組みでもスタートさせて 小さなことでも実践できることをやってみては
利便性高い	物流、工業都市として整備された基盤がある 空港に近くで便利

■黄色グループの意見その2

分野	意見
中心部が空洞化	中心部に多い空き地 年寄りも住める賃貸住宅などを中心部に配置しては 中心部の商業環境の整備を 商店を市民が応援するしくみを作る（商店街パスポートなど） 未整備な旧中心街（錦町、大町）は火災など災害がこわい 目先の発展だけ追ってしまって「保存」がない 街並景観と言える所が少ない（古いものが残っていない） 東西に長い町 拡大し過ぎた市街地をコンパクトに 有休地を探して有効利用しては（地域のバスターク等） 中心街を中心とした町づくりにかたよっている
高齢者の安心	何かの時にはすぐ相談できるシステムを（病気の不安、歩いて行ける近くのクリニックなど） 高齢者用の施設はあるが、個々の質をあげること バリアフリーの道路が少ない
不便な交通	市バスの運行体制が悪い 細長い街なのでバスの便がわるい 公共交通（バス、JR）が利用しにくい 交通渋滞が多い、特に雨の日、雪の日混雑、普段なら10分のところが1時間もかかる 朝夕の交通混雑をなんとか！（特にバイパス） 高速道路の出入口が中央にあると良い 100円バスをぐるっと循環させては 道路が広いですね（全市的に）

(2) 第2回まちづくり懇談会の開催結果

①まちづくり懇談会の開催経緯

- 開催日：平成13年11月26日(月)
- 時間：午後6時30分から午後9時
- 場所：苫小牧市役所9F会議室
- 参加者：市民32名
- タイトル：緑あふれるまちづくりに向けて
- ねらい：住民にとって身近な「緑」をテーマに、苫小牧市の緑の現状を知り、これからどんな手立てをしていくべきかを検討すること。

②ワークショップ・プログラム

- まちづくりの基本精神と方向について（第1回懇談会の結果より）
- グループディスカッション
 - ・進め方とルールの説明
 - ・緑を守る・育てる・暮らすという視点から何をなすべきかを議論
 - ・第1歩の取り組みとして何ができるかを議論
- グループ発表

③ワークショップの結果

■第1&6班の意見

		緑をまもる	緑をそだてる、つなぐ	緑と暮らす
どんなふうにしたい？	取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会活動で花や緑を守っている ・花が咲く木等が少ないように感じる ・桜の公園が欲しい ・なぜ木もれびの道の木を切ったのですか ・街路樹が車の視界の妨げ 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園、街路樹ともまとまったくイメージがない。バラバラ ・楽しい公園がたくさんある ・公園の数が多く、身近に感じられる ・桜の木を植えたい ・花見がしたい ・身近な公園は充実している 	<ul style="list-style-type: none"> ・木もれびの道には多くの人が歩いている ・分離帯の芝刈りで交通の妨げになる期間が長い ・海辺で遊びたい ・海水浴場が無い ・砂浜があるように、海で楽しめるように ・釣り等が専門にできる場所がほしい
		第1歩	<ul style="list-style-type: none"> ・海 	<ul style="list-style-type: none"> ■苫小牧の目玉となる公園を！ ・シンボル、特色。例)ハーブ公園、ハスカップ公園、すずらん公園 ・高丘、緑ヶ丘、金太郎池 ・緑ヶ丘、市民文化、錦大沼

■第2班（かに座・やぎ座）の意見

		緑をまもる	緑をそだてる、つなぐ	緑と暮らす
どんなふうにしたい？		<ul style="list-style-type: none"> ■親しむのが基本 <ul style="list-style-type: none"> ・市内の河川で護岸されていない区間、また、ビオトープを意識し、自然に戻す ・川の流域に何らかの緑化を。川辺に遊び場を ・北大演習林付近を市民で守る→現状を乱さず市民が親しめる ・20年経つけど1回も行っていない ・沼を守っていく。市街地内には金太郎沼ぐらい ・昔は沼でスケートしてた（子供達が接していた） 	<ul style="list-style-type: none"> ■子供達と一緒に <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校のまわりにもっと木を植えると風景が良くなる ・子供達（小学・中学生）が参加できる地域 ■桜咲かせたい <ul style="list-style-type: none"> ・苦小牧には桜が育たないのか。桜並木か公園が欲しい ・桜並木などを利用したまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ■花一杯の道路 <ul style="list-style-type: none"> ・花一面公園か道路をつくる（つばき、つつじなど・・・）例）芝桜、コスモス ・市民参加型においての道路中央分離帯を利用した花壇 ・生活道路などの街路、道端に花いっぱい運動 ■緑を楽しむ <ul style="list-style-type: none"> ・パークゴルフ場を作ったり、市民の憩いの場としたい（市営）民間施設多い ・みどりの迷路 ・クリスマスなどのイルミネーションかざり ・みどりのコンテスト。花・木・盆栽自慢。箱庭・花壇
何ができる？	取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ■苦小牧の原風景 <ul style="list-style-type: none"> ・苦小牧名物ハスカップ、どこにいった？ ・公園の中でハスカップを生かす ・原生的な環境を残したい ・東部基地内カシワ東部の自然 ・キスゲの群落ある ・散策路をつくれば自然を楽しめる ・ウトナイ湖周辺の開発が進んでいる（住宅が接近している）バッファーゾーンが必要 ・（ウトナイ湖を利用する）観光の一部として※路の駅など 	<ul style="list-style-type: none"> ■楽しむ場 <ul style="list-style-type: none"> ・やはりこもれびのみちの拡大 ・錦大沼、オートリゾート等の維持、拡大（人工的施設） ・近くの山にハイキング（例えばヒューム管通近くの山） 	<ul style="list-style-type: none"> ・庭木相談ボランティア（サンガーデンでやっている）
	第1歩	<ul style="list-style-type: none"> ■みんなで探検→緑の地図づくり→HPで発信 <ul style="list-style-type: none"> ・緑の地図（ネットワーク）をつくる（樹木・花などの分布）どこになにがあるのか ・豊川町にサクラの大木がある ・市民から公募してもよいのでは ・みどりのツア―。植樹、巣箱 ・情報の発信。施設・地図 ・みどりのホームページづくり※桜が咲いたなど、市民が情報を書き込み 	<ul style="list-style-type: none"> ■街区公園づくり <ul style="list-style-type: none"> ・児童公園の維持管理を町内に任せ（新明町） ・町内ごとのカラーを出したい。もっと踏み込みたい。どこまでができるか？ ・老人クラブが管理しているところあるよ。176ヶ所、50団体 ・利用者の変化に合わせて。子供→中高年 	<ul style="list-style-type: none"> ■庭木の交換 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭で余っている庭木のフリーマーケット

■第3班（ふたご座・いて座）の意見

	緑をまもる	緑をそだてる、つなぐ	緑と暮らす
どんなふうにしたい？	<ul style="list-style-type: none"> ■ 緑を身近に感じるようにしてい ■ 市民みんながたずさわることのできる緑が欲しい <ul style="list-style-type: none"> ・自然を壊さず共に憩える所のつくりかた ・緑と触れ合える施設をつくろうとするのなら、最少的な作り方で人が集まるような施設 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の足で歩いてみると、住宅の合間にも、樽前山がきれいに見える場所がみつかった ・苦小牧川のほとりに桜の木を植えて花の咲く街にしたい ・桜の木を大きくしたい ・苦小牧にも緑が育つと実感している ・苦小牧で育てやすい木や花の情報が欲しい ・地のもの「木」は大事にして欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルテンより樽前山7号目までロープウエイ乗って上空より緑を見下ろしたい ・まちを緑を展望できる場所を
取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ■ 緑の保全・保護 ■ 緑に関わるPRをもっとしてほしい ■ 市民がもっと緑に関われるようにして欲しい <ul style="list-style-type: none"> ・公園の自然の（樹木）保護育成に努める ・森、緑の必要性の啓発・PR。若年層対象として。例）森は海の母！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・木もれびの道→苦小牧川→灯台→海→小糸井川と縦貫できるようになったら？ ・動物など生き物のための木を育て欲しい ・緑に関するPRを！ ・植樹するときは将来の姿を考えて ・道路の安全も考えて 	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹を増やす ・特に公園
何ができる？ 第1歩	<ul style="list-style-type: none"> ■ 緑の相談に行こう。窓口を決めてね ■ 緑のスタンプラリーをやろう ■ 緑や自然や遊びを支援する人材の育成 ■ 「地」のもの（植物）の育成 ■ 緑を伝える人 <ul style="list-style-type: none"> ・緑を守る。「緑のレンジャー」の認定。学校、町内会、企業etcに「緑のレンジャー」を認定する ・緑と暮らす。1.緑のスタンプラリー 2.課外授業で行く機会を増やす ・自然の中で遊ぶことを指導する人の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・木もれびの道を大事にして、町内会で手伝えることはないか。日新町の花を置くことも一つの方法である。市民も関わりを持てるように ・緑の職人の認定。高齢者・経験者を活用《保守・管理を委託する》 ・記念樹を配布し、名前を標示する ・市民が緑に関われるよう <ul style="list-style-type: none"> ・除草、枝払いならできる ・1.老人会、学校、町内会、企業etcに公園・空き地を貸し出し、品評会を開催し、「緑のスタンプラリー」で投票する ・2.家庭庭園も 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭菜園の造成。家庭菜園を整備し貸し出し、個人に管理してもらう《子供達に土と交わる機会を多くする》 ・落ち葉たき

■第4班（おひつじ座・おうし座・さそり座）の意見

	緑をまもる	緑をそだてる、つなぐ	緑と暮らす	
どんなふうにしたい？	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の役割、恩恵をもっと徹底してわかつてもらう ・樹木の本数から質の問題を考える ・道路上に植樹を増加させたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き地を地域通貨などで長期で借り上げてビオトープ化しよう ・木を本気で増やすために自分達の考え方を変えよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・木もれびの道には多くの人が歩いている ・分離帯の芝刈りで交通の妨げになる期間が長い ・海辺で遊びたい ・海水浴場が無い ・砂浜があるように、海で楽しめるように ・釣り等が専門にできる場所がほしい 	
何ができる？	取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・各戸に植樹 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングロードをもっとつくって欲しい。木もれびの道のような ・小さい公園を数多く点在させるより、子供も大人も憩える公園を増やしては 	
何ができる？	第1歩	<ul style="list-style-type: none"> ・道の自然遺産指定に重要な自然ポイントを推薦する ・渡り鳥の中継地として、弁天沼の自然公園指定化する ・苦東を自然公園化したい ・樹木、植物を知る→名札をつける ・温暖化対策としての木の重要性をくりかえし広報する 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校単位で花を育てることを考えては？ ・学校林の充実。落ち葉の生かし方。生き物の住める所をつくる ・街を花と緑でうめよう条例をつくって全市で緑化をもっと進める ・落ち葉を土に返し肥料にするNPO（？）を作ったらいいと思う ・植樹体験ツアーの実施（本州から）（地域の市民も参加） 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前の緑化の再整備を ・町毎のシンボルストリートを作ってみる ・同じ樹種でデザインする ・自宅の庭から緑を育てよう。土と水と緑のある生活 ・アパートの壁面をつたで緑化しちゃおう ・生け垣を奨励する。つくると得する条例づくり ・住宅、事務所、工場等の緑地化パーセントを条例で決める

■第5班（みずがめ座・てんびん座・かに座）の意見

		緑をまもる	緑をそだてる、つなぐ	緑と暮らす
どんなふうにしたい？		<ul style="list-style-type: none"> ■生態系 <ul style="list-style-type: none"> ・自然の豊かさを守る（造園ばかりではなく） ・緑と生物多様性確保との関係（樹種） ・手つかずの自然も残して欲しい ■潮、日照 <ul style="list-style-type: none"> ・生態系を考えた緑の配置の必要性を知る ・小さな緑も大切に ・都市公園内のビオトープ ・緑の種類を知る必要あり。山の緑、まちの緑、その中間の緑 	<ul style="list-style-type: none"> ・きれいな公園 ・親水空間をきれいに ・市街地内（民有地）の樹林を公有地化して保存 ・火山のまちに住んでいることを自覚し、火山をよく知る ・緑（草木）の種類毎に楽しめるような空間の形成（作る緑） 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所毎に楽しめる ・身近な緑
	取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ■緑と親しむ手立てが必要 ■20世紀は行政に頼った時代。21世紀はパートナーシップの時代 ・湿原に対する理解を深める ・虫がいても認める。意識、取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の役割を目的毎に明確にして欲しい（手を入れすぎることのない公園もあっていい） 	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、スポーツ都市としての位置づけ。自然の活用 ・冬、例えば湿原のスケートリンク化
何ができる？	第1歩	<ul style="list-style-type: none"> ・マップづくりを通した理解、認識 ・ビオトープマップ ・保全派の人達でボランティア活動をする。枯葉清掃など 	<ul style="list-style-type: none"> ・緑のマップの作成 ・イベントによる自然への親しみ、交流 ・実のなる木 ・ハスカップ ・ハマナス ・自然の恵を受ける（食べる） ・鳥も来る 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供と一緒に ・身近な公園などで観察会を開いて自然を知る ・地域探検隊、愛着度、安全→大切にする場所地図へ ・子供達を巻き込んだ植物、花壇整備

(3) 第3回まちづくり懇談会の開催結果

①まちづくり懇談会の開催経緯

- 開催日：平成14年8月25日(日)
- 時間：午後1時00分から午後5時
- 場所：苫小牧市役所9F会議室&苫小牧都心部
- 参加者：市民18名
- タイトル：みなとまち“苫小牧”の顔（都心部）づくりについて
- ねらい：苫小牧市の都心部を実際に見て歩くことにより、まちの資源・課題を実感しながら、“みなとまち”苫小牧の顔となる都心部を、市民の皆さんに親しまれる魅力あるものとするための方策について検討すること。

②ワークショップ・プログラム

- タウンウォッチングの進め方の説明
 - ・3つの見学コースごとに、まちの資源・課題を観察
- タウンウォッチング
 - ・わくわくコース：駅前と商店街を中心に、楽しいスポットを探しました
 - ・潮風コース：漁港と市場周辺、ふるさと海岸など、苫小牧の海の活用について見学しました
 - ・健脚コース：駅前からふるさと海岸まで、まちと海のつながりについて見学しました
- 見学結果のまとめ
 - ・見学結果を大きな地図にとりまとめました
- グループ発表

③ワークショップの結果

●わくわくコース見学グループの発表

- ・中心市街地に人気がない、活性化を図るにはどうしたらよいか。
- ・停車場線は、電線地中化でスッキリしているが緑が少ない（木が小さい）。だけど花できれいに飾っている → 将来的には大きな木のトンネルにしたい（病院の人のうるおいにもなる）。コンポストの利用や、ボランティアの活用を。
- ・シンボル通りでは、日曜なのに定休日の店が多い（例えばアポロなどの有名な喫茶店も休み）。
- ・王子通りは、正門通りは緑が多く、地域の資源である。
- ・彫刻に出会うとホッとする（～の像など複数）。
- ・夜のまちは、昼は人通りがない（1条通等）。
- ・国道36号を渡り、官庁街、文化公園周辺にくると緑が急に多くなる。公共施設の敷地と道路（歩道）の間のフェンスをとると公園的ないい雰囲気になる。垣根をとって、人と緑が行きかう環境が大事ではないか。
- ・全体の印象として若い人がいない。
- ・大型店（丸井さん）の壁面が暗い、殺風景であるのでライトアップされると良いと思う。
- ・花をもっと植えて、もっと雰囲気をよくしたい。
- ・山と海を結ぶ自然の回廊として緑のゾーンで結ぶ。通る人、場所（例えば、王子病院を通る人、バイパスを通る高校生など）に応じた特色づけ、アクセントを設けたい。

●わくわくコース見学グループの全意見

[駅直近なのに]	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車置き場放置、ダイエー横。 ・駅前の商店が少し汚い。ダイエーも壁が寂しい ・丸井さんの壁、なにもない。駅も汚くなった。夜もライトアップになるのでは。 ・喫茶店も休み（日曜日）。 ・車止めがとがっていて危ない（2条通り） ・王子の団地の木は素晴らしい ・王子の庭はすばらしい、手入れがされている。 ・駅前に空き店舗が7、8件ある ・王子通り（ホテル通り）の魅力ある並木道をどうつくり育てるか ・飲み屋さんの近くの道路が汚い。錦町、大町ゴーストタウン化している ・トイレがいたんでいる。夢がない公園でした（いざも公園） ・案内板を（国、道の方に） ・市有地の有効利用 ・歩道橋がとつとつ ・マンホール ・人通りが少ない、花壇の手入れを ・花壇：停車場線、道道。花が咲いていないので何とか ・待合所に戸をつけることが可能かどうか ・電柱、電線が多い（36号） ・公園のまちづくりの可能性 ・役所の施設のフェンスを取り払う ・市民館の横に花を植えてはどうか ・車止めの色・形を検討する
[マチの基本的な問題・課題]	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に人影がまばら。淋しい限り。何が不足、だめなのか、どうしたらよいのか ・日曜のまちが死んでいる：駅前通り、日曜休業、空地、空店舗が多い。どう活用したらよいか ・市民が駅前に来る意味がない ・商店街がパーキングになっている ・若い人を見かけない ・浜風が強い→マチに人が出ない
[提案]	<ul style="list-style-type: none"> ・人が集う魅力を作る（商店以外で） ・緑の道でマチと海岸と港をつなぐ ・木を育てる工夫をする。山手のぼうず山～自転車道に ・再開発：新しい街づくりの1つの例：フェンスをつくる、埋設、並木、立像 ・まち中にぐるっと彫刻を ・銅像を設置できないものか（王子の前病院のような） ・大きい並木を育てる熱意と努力が必要

●潮風コース見学グループの発表

- ・住んで20年になるが、初めてまちの中心をゆっくり歩いて、いろんな所があることを発見した。
- ・文化公園の木も大きくなつた。水辺もあって子供たちが遊んでいた。
- ・舟見通りはヤチダモが大きく育つていて緑が多い。
- ・花卉市場では、イベントが開催されていて多くの人が集まつていた。
- ・公設市場、サンワードでは新鮮な魚を買って、内地に送ることができる。漁港周辺はこれから発展する途上ではないか。今後、市民に魚介を提供する拠点に育つて欲しい。
- ・漁港周辺には漁業者の食堂（マルトマ食堂）がある。いろんな人がくる場所に発展してほしい。
- ・高齢者向けの住居があつてもよいのでは。
- ・ふるさと海岸は、港管理組合（シルバー人材センター）が清掃していた。こども達が足を入れて遊んでいた。苦小牧で、海に親しみ、一日遊べる唯一の場所ではないか。
- ・カルチャーストリートは人通りが少ないが楽しく散策できる。ふるさと海岸が完成されればもっと人通りが増えるのではないか。
- ・埋立地は花火大会などのイベントの場にはなつているが、もっと活用できないか。
- ・駅前通りのヤチダモは、成長点を止められてかわいそう。
- ・ヤチダモ（落葉も腐葉土となって大切や役割を果たす）は将来は大木になつて、気持ちよく散策できる通りになる。
- ・苦小牧は水がきれい、海の近くの川までイワナが棲んでおり、海へも栄養を供給している。

●潮風コース見学グループの全意見

[文化公園周辺に関する意見]	<ul style="list-style-type: none">・あおぞらの像：普段あまり気にせずに、見ていなかつたものが多い（総合体育館南）・文化公園西側：文化公園も思ったより広い。各所に市民のいこいの場・文化公園内の水とのふれあいの場：安全に水と触れ合える場が市内にあまり多くない中で、子供たちの絶好の遊び場。（先日の海の事故との関係）
[緑に関する意見]	<ul style="list-style-type: none">・文化公園南の緑のトンネル：歩いて気持ちが良い。多くの歩道がこのようであれば。害虫の心配もあるが・落葉が腐葉土になる。文句言つてはダメ！・海の近くにしては緑の多い道。国道もぜひ・チップヤード横の木：あらためてみると立派です
[イベントに関する意見]	<ul style="list-style-type: none">・花卉センターでイベント、人がいっぱい安いよ・とまこまいフラワーフェス：緑は多いが花が意外と少ない苦小牧。よいイベント。緑が多く華やかな街に
[漁港周辺の活用に関する意見]	<ul style="list-style-type: none">・豊かな海になつてきた（ホッキ、カレイ、イカなど）・“港ふれあい通り”を通つて海へ行ける雰囲気を・卸売センター：ここで買い物ができると思っている人もいる。観光資源、安全、新鮮な食材の供給拠点として活用している。地元の新鮮な食材とベテラン商人・サンワールド：こちらはお客様がいっぱい。方法次第でこの周辺にはもっと人が集まるのでは・マルトマ食堂：“うまいもの”、“貴重な食の観光資源”。上手に活用を・もっとPR！苦小牧の目玉に！・漁港の風景：苦小牧らしい風景。海が近いのに遠い感じのあるまち“とまこまい”・遊覧船を運航して、子供達に乗つて欲しい・埋立地をイベント広場に（人を集めよう）・埋立地はバーベキューにもよい（ゴミ捨てないで）・市役所9階からの風景：埋立地、埋立終了後の活用。ぜひ港の見える公園や海とのふれあいの場に・かもめ公園：港に近いのにもつたない。上手に活用すると港の見える公園としていこいの場等になるのでは
[ふるさと海岸に関する意見]	<ul style="list-style-type: none">・ふるさと海岸：いつの間にこんなに立派なものが。すばらしい・港管理組合から委託を受けたシルバー人材センターの方（清掃員）。せっかくの施設を大切に。市民モラルの向上を・ふるさと海岸へ通じる道（エネルギー公社横の道）：“みなとロード”港へのふれあいの道

●健脚コース見学グループの発表

- ・道道停車場線では、歩道のゴミステーションが景観を壊している。
- ・表町公園はきれいな公園。市民の方もたたずんでいた。入り口の足元は、つまづかないように舗装して欲しい。
- ・道道の歩道は、インターロッキングの舗装や、アイスホッケーを型どった街路灯などがあり、雰囲気が良いと思う。
- ・きれいな花壇（商店の方がきれいに維持）があり、王子病院の前の植樹もよかったです。
- ・ただの空き地が景観を壊している。
- ・駅前広場が駐輪場化していて、見た目も使い勝手も悪い。
- ・サンプラザ近くに水飲み場があったがわかりづらい。もうちょっときれいだったらいいのに。
- ・王子通りは木が大きくて、きれい（工場を隠すため？）。
- ・シンボル通りでは駐車スペースによって歩道が狭くなっている所もある。車イスなどそれ違えないのではないか。
- ・立派？な案内板だが、よさそうで意外とわかりにくい。目線の高さ等の配慮が必要ではないか。
- ・空店舗が目立った。
- ・シンボル通りを歩いてい、よくないにおいが流れてくる場があった。
- ・国道まで来ても海に向かっている感じがしない。国道から南を歩いていても同様に海を感じない。
- ・潮見通りまで来て、やっと海が見えた。
- ・ふるさと海岸では、若い人がバーベキューをやっていた。遊びに来ている人に聞くと気に入っているという意見が聞かれ評判が良い。また来てみたい。遊泳禁止だけど、危ないので。
- ・ふるさと通りの歩道が傷んでいるので整備してはどうか。
- ・食べ物屋さんがない。
- ・提案として、駅と海を結ぶレンタサイクリングがあってもよいのでは。
- ・また駅前で朝市をしたり、シンボル通りの中で苦小牧の海の幸を感じるような市場や飲食店を設け、海に近づいていると感じるような工夫をしていけばよいのではないか。

●健脚コース見学グループの全意見

[駅周辺に関する意見]	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前広場が駐輪場となっている、駅前広場の自転車を何とかしたい ・駅前駐車場、駐輪場の不足 ・駅の近くに水飲み場（サンプラザ近く）があった。大変立派で良いものなのにちょっとわかりづらい
[通りの緑に関する意見]	<ul style="list-style-type: none"> ・王子通りの街路樹がすばらしい ・ホテルと歩道の間でホテル側の緑地がよく手入れされている ・家具屋さんの前にプランターを置いてきれいに飾っている（表町駅前） ・R36号より南側は、緑の多い広い道路空間がいい（カルチャーストリート） ・海岸近くは植物が育たないといわれているが、クロマツ、ハマナス等以外と緑が多く、生育も良いように見られました
[歩道に関する意見]	<ul style="list-style-type: none"> ・王子通り、駅前通りの歩道は良好 ・『いろはにはへと』の所で、ビルの排気の臭いが気になりました ・R36号の陸橋不足、R36号に立体交差を作るとか、歩道橋にするなど、何らか考えると良い ・シンボルストリート、照明灯に使い終わったと思われるツリー電球が残っている ・シンボルストリート、歩道が狭くて人がすれ違うのにぶつかる（ローソン付近） ・車イスで廻ったり通りで動くことができない ・すばらしい彫刻があるが、あまり目立たない ・ストリートによって街路灯（デコレーション）に工夫がされていてきれいです ・北電のBOXが目立ちすぎるのは
[案内板に関する意見]	<ul style="list-style-type: none"> ・シンボルストリートの案内板は立派ですが、中途半端でアピールしているかなと思う
[人通りに関する意見]	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道を歩いている人が全くいない（国道より南側） ・駅前通りの、人通りが不足 ・商店街で、日曜日なので人通りが少ないという言葉が気になった

[公園に関する意見]	<ul style="list-style-type: none"> 表町公園の石畠は、ヒールがつまづいて危険
[ごみに関する意見]	<ul style="list-style-type: none"> 表通りにゴミステーションがあるのはいかがか 思ったよりゴミが落ちてなくて、通りがとてもきれいです
[空き地利用に関する意見]	<ul style="list-style-type: none"> 空店舗が目立つ 食べ物屋がない 産業会館跡地から市民会館にかけての歩道沿いは広くゆったりとしているが、跡地の利用に何か良い案がないだろうか？
[海に関する意見]	<ul style="list-style-type: none"> R36号を越えてもまだ港or海を感じない。何らかの方法、標識とか、道全体に誘導の雰囲気を！ 町以外の人にも是非こんなに整備された海岸線、ふるさと海岸を知らせたい。案内板の充実が必要。海を感じてもらいたい。どうしたらいいでしょう。 ふるさと海岸の安全対策が不安 ふるさと海岸ではボランティアらしき人達が掃除をしていた ふるさと海岸、若い人も老いた人も利用している（子供一砂遊び、若い人バーベキュー、老いた人ウォーキングなど） ふるさと海岸は良い。若者に聞いてみたら「時々来ます。いい所ですよね。ジンギスカンもしたりしますよ」と気に入っている様子
[提案]	<ul style="list-style-type: none"> 駅前～ふるさと海岸に、自転車通り（サイクリング通り）、エコカー（軽自動車）を 朝市、地産地消を 海を感じる市場があればよい 労働福祉センターの通りは木も古く、道も広くて良い。海岸通りに入るのにいい雰囲気です（市民会館通りよりいいです）。歩道を整備するともっと良いです

(4) 第4回まちづくり懇談会の開催結果

①まちづくり懇談会の開催経緯

- 開催日：平成14年10月27日(日)
- 時間：午後1時00分から午後5時
- 場所：苫小牧市日新小学校2階視聴覚室
- 参加者：市民27名（懇談会メンバー17名+各自治会代表者10名）
- タイトル：日新・しらかば町地区の魅力づくりについて
- ねらい：日新・しらかば町地区をモデルにした、地域の個性を生かした魅力あるまちづくり、高齢者や子供たちが安心して暮らせるまちづくりのあり方の検討

②ワークショップ・プログラム

- 話題提供
 - ・各自治会の代表者の方から、地区の魅力を紹介
- スライド上映
 - ・雨天のため、事務局が事前に撮影した写真をスライド上映し、地区の現状を確認
- タウンウォッチング
 - ・雨の合間をぬって、日新川沿いの遊歩道、木もれ日の道などを、車いすなどに試乗しながら見学
- 意見交換
 - ・「地区のにぎわい」、「地区の水と緑」、「高齢化社会と地区」の3つのテーマに分かれて意見交換し、地図にまとめる
- グループ発表

③ワークショップの結果

●各自治会の方から見てもらいたいと示されたこと

- ・地域の魅力づくりとして、町内会の手づくりで桜並木をつくった部分を見て欲しい。
- ・ちょうど昨日、今日と総合福祉社会館とその周辺で文化祭をやっているので見て欲しい。
- ・糸井公園に町内会の手づくりでパークゴルフ場をつくって賑わっているので是非見て欲しい。
- ・木もれ日の道の街路樹は見事である。
- ・地区には日新川を始めとして、小さな川がいろいろと流れている。水辺をもっと親しめるものにしたいと考えているので見て欲しい。
- ・日新団地は少し古くなっている。大規模な公営住宅団地の実態を見て欲しい。
- ・地区内のラドバーン方式の道路は、静かで良い面と、緊急車両が入りづらい、来訪者が分かりにくいくなどの悪い面の両方がある。その実際を見て欲しい。

●にぎわいグループの発表

- ・地区的駅である糸井駅前がさみしい。せめて駅前に緑があればいいのに。
- ・地区的環状道路上にいろいろなお店がある。特に、道道との交差点付近には、本屋、ビデオ店があり、地区外の高校生もバスに乗って遊びに来る。
- ・地区的環状道路上には、他にもちよこちよこと店があるので、一ヶ所にかたまりすぎずに、ぐるっとまわれるようになるとよいのでは。
- ・各町内会ごとに公園などを利用してお祭りをやっている。それぞれの町内会の催しなどの情報交換ができるともっとよいのでは。

●水と緑グループの発表

- ・緑が育ってきて、心にやすらぎを感じる。
- ・日新川は水がよどんでいる。川に落差をつけたり工夫して魚が棲めるような川にしたい。地区では1年に1回藻を刈ったり、5月と10月のまちをきれいにする日にはごみ拾いをしている。
- ・地区内に沢山ある公園には、山をつくるなどして、冬でも子供たちが遊べるようにしてはどうか。
- ・公営住宅には空きスペースがたくさんある。樹木も少なくて淋しい感じがするので、公園的に整備してはどうか。
- ・木もれ日の道は素晴らしいが、落ち葉の清掃など、市と住民の協力による対策が必要なのでは。
- ・個人住宅でガーデニングなどで庭を飾っているところもある。この取り組みを広げていくときれいな街になっていくのでは。
- ・地区内の道路を、バイパスを避けて通過する車がかなりある。静かな住宅地を守るために、このような通過車両を規制できないか。

●高齢化社会グループの発表

- ・車イスで歩道橋を渡ってみたがとても大変だった。インターロックのブロックも見た目は良いが、車イスではガタガタして不便。景観が良くても高齢者が不便なものは避けるべき。
- ・日新川などを、周辺の小中学校の敷地に取り込んで、水遊びできるような環境をつくってもいいのではないか。
- ・地区内の環状の道路は、住んでいる人にはよいが、来訪者にとってはわかりにくい。他の地区に広がっていかなかったのは不便だったためではないか。
- ・公園を高齢者が使えるもの、人が集まるるようなものにしようとパークゴルフ場を作ったところ、地区外の人も含めて多くの人が訪れるようになった。
- ・木もれ日の道に、もっと気軽に休憩できるところがあると、歩いている人とも話ができるよいのでは。
- ・地区に住んでいる人は自分の町内に誇りを持っていると感じた。
- ・これから時代は、高齢者はすでにやっているが、大人や若者も協力して、ごみ拾いや落ち葉かきなど、地域づくり活動に市民自らが参加することが必要なのでは。住んでいる人がどれだけ自分の地域に関っていけるかが課題なのではないか。

(5) 第5回まちづくり懇談会の開催結果

①まちづくり懇談会の開催経緯

- 開催日：平成15年2月19日(水)
- 時間：午後6時30分から午後9時
- 場所：苫小牧市役所9F会議室
- 参加者：市民26名
- タイトル：都市マスをもとに自分たちでできることを考えよう
- ねらい：「都市計画マスターplan(素案)」をもとに、まちづくりの目標や基本方針に対する意見・要望を聞く。

②懇談会プログラム

- 都市計画マスターplan(素案)の説明
 - ・スライド上映により、計画の内容について説明
- 意見交換
 - ・都市計画マスターplan(素案)に対する意見・要望

③懇談会の結果

●懇談会での意見・要望と市(素案)の考え方その1

項目	懇談会での意見・要望	市(素案)の考え方
目標について	人口・市街地の規模について	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画で定めている35万人の人口規模は大きすぎないか。 ・東西に長い市街地であり、広がりすぎているのではないか。 ・南北方向に市街地を延ばすことはできないのか。 <ul style="list-style-type: none"> ・総合計画の人口規模は、議会の議決を経て定められたものですので、上位計画として尊重し、総合計画の見直しにおいて都市マスも再検討することとなります。 ・しかし、少子高齢化が進んでいる中で、今後は大幅な人口の伸びはないと考えています。その際の市街地の規模は、現在の市街化区域を中心として考えています。 ・苫小牧東部地域開発の進捗など社会増加の要因が発生した場合に、市街地の拡大について検討することになります。
	目標の重点について	<ul style="list-style-type: none"> ・目標で定めている項目が多くすぎるのではないか。それ必要だとは思うが、重点がわかりづらい。 <ul style="list-style-type: none"> ・都市マスは、都市計画の基本的な方針として、道路・公園などの公共施設の配置や整備の方針、住宅・商業・工業などの立地可能な場所(土地利用)の方針を示すものであり、それぞれの項目ごとに目標を定めることが必要になります。 ・何を重点的に進めていくかは、個別の事業計画の中で、優先順位やプログラムを検討していくことになります。
	環境からみた記述について	<ul style="list-style-type: none"> ・人間環境都市として、環境をキーワードにした記述が必要ではないか。 <ul style="list-style-type: none"> ・都市マスとして、それぞれの都市計画の基本的な方針の中で、環境に配慮した記述内容としています。 ・土地利用についてはコンパクトな市街地の形成による周辺部の森林と農地の保全などを位置づけています。 ・交通体系については通過交通に対応し環境に配慮した主要幹線道路の整備と歩行者・自転車ネットワークの形成、環境への負荷の少ない公共交通の充実などを位置づけています。 ・水と緑の形成方針では、緑の保全、緑を育てる・つなぐといった緑化、緑のまちづくり活動の支援、水辺空間の形成、都市景観の形成などの方針を位置づけています。
	文化芸術について	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術が余暇活動として捉えられているが、生活の根幹として必要不可欠のものではないか。 <ul style="list-style-type: none"> ・「市民文化芸術振興条例」などの主旨に即して、記述内容を検討していきたいと思います。

(5) 第5回まちづくり懇談会の開催結果

①まちづくり懇談会の開催経緯

- 開催日：平成15年2月19日(水)
- 時間：午後6時30分から午後9時
- 場所：苫小牧市役所9F会議室
- 参加者：市民26名
- タイトル：都市マスをもとに自分たちでできることを考えよう
- ねらい：「都市計画マスターplan(素案)」をもとに、まちづくりの目標や基本方針に対する意見・要望を聞く。

②懇談会プログラム

- 都市計画マスターplan(素案)の説明
 - ・スライド上映により、計画の内容について説明
- 意見交換
 - ・都市計画マスターplan(素案)に対する意見・要望

③懇談会の結果

●懇談会での意見・要望と市(素案)の考え方その1

項目	懇談会での意見・要望	市(素案)の考え方
目標について	人口・市街地の規模について	<ul style="list-style-type: none"> ・総合計画で定めている35万人の人口規模は大きすぎないか。 ・東西に長い市街地であり、広がりすぎているのではないか。 ・南北方向に市街地を延ばすことはできないのか。 <ul style="list-style-type: none"> ・総合計画の人口規模は、議会の議決を経て定められたものですので、上位計画として尊重し、総合計画の見直しにおいて都市マスも再検討することとなります。 ・しかし、少子高齢化が進んでいる中で、今後は大幅な人口の伸びはないと考えています。その際の市街地の規模は、現在の市街化区域を中心として考えています。 ・苫小牧東部地域開発の進捗など社会増加の要因が発生した場合に、市街地の拡大について検討することになります。
	目標の重点について	<ul style="list-style-type: none"> ・目標で定めている項目が多くすぎるのではないか。それ必要だとは思うが、重点がわかりづらい。 <ul style="list-style-type: none"> ・都市マスは、都市計画の基本的な方針として、道路・公園などの公共施設の配置や整備の方針、住宅・商業・工業などの立地可能な場所(土地利用)の方針を示すものであり、それぞれの項目ごとに目標を定めることが必要になります。 ・何を重点的に進めていくかは、個別の事業計画の中で、優先順位やプログラムを検討していくことになります。
	環境からみた記述について	<ul style="list-style-type: none"> ・人間環境都市として、環境をキーワードにした記述が必要ではないか。 <ul style="list-style-type: none"> ・都市マスとして、それぞれの都市計画の基本的な方針の中で、環境に配慮した記述内容としています。 ・土地利用についてはコンパクトな市街地の形成による周辺部の森林と農地の保全などを位置づけています。 ・交通体系については通過交通に対応し環境に配慮した主要幹線道路の整備と歩行者・自転車ネットワークの形成、環境への負荷の少ない公共交通の充実などを位置づけています。 ・水と緑の形成方針では、緑の保全、緑を育てる・つなぐといった緑化、緑のまちづくり活動の支援、水辺空間の形成、都市景観の形成などの方針を位置づけています。
	文化芸術について	<ul style="list-style-type: none"> ・文化芸術が余暇活動として捉えられているが、生活の根幹として必要不可欠のものではないか。 <ul style="list-style-type: none"> ・「市民文化芸術振興条例」などの主旨に即して、記述内容を検討していきたいと思います。

●懇談会での意見・要望と市（素案）の考え方その2

項目	懇談会での意見・要望	市（素案）の考え方
土地利用について	緑の多い住宅地づくりについて	<ul style="list-style-type: none"> 今までの住宅地整備では、既存の緑があまり活かされていない気がする。これからの住宅地整備では緑を活かすべきではないか。緑の目標など定めないのか。
交通体系について	J Rについて	<ul style="list-style-type: none"> 札幌～苫小牧間の快速電車がない、千歳空港に行くのに乗り換えが必要など不便である。 苫小牧中心部のJ Rの高架化を進めるべきではないか。
高速道路について		<ul style="list-style-type: none"> 中央部へのインターチェンジの設置を進めてはどうか。
東西方向の交通軸について		<ul style="list-style-type: none"> 東西に長い市街地を結ぶ主要幹線が必要ではないか。住宅地の中を通過車両が通るのはよくない。
バス交通について		<ul style="list-style-type: none"> バス利用の利便性を高めるために、主要なバス停に電光掲示板などを設置して、いつバスが来るのがわかるようにしては。 市営バスの民営化がいわれている中で、どのようにバス路線を確保していくのか。
自転車道について		<ul style="list-style-type: none"> 苫小牧市の特性として、自転車ネットワークの形成は大切ではないか。どのように実現化を図っていくのか。
水と緑について	ウトナイ湖周辺について	<ul style="list-style-type: none"> ウトナイ湖はラムサール条約登録湿地として保全を前提に考えるべきではないか。 ウトナイ湖は苫小牧のシンボル的な水と緑であり、もつと利用を図るべきではないか。

2-3 地域別懇談会の結果

地域別構想の策定にあたって、苫小牧の市街地を生活圏などから6つの地域に区分した「地域別懇談会」を開催し、地域の資源の確認や発掘、問題・課題の認識と共有化、地域づくりの方向性の検討などを行いました。

地域別懇談会では、各地域ごとに6~8名程度のグループに分けて、ワークショップ形式で議論することにより、参加者の多様な意見の抽出を図るとともに、グループ発表を行うことで、共通認識づくりをめざしました。

●地域別懇談会の参加者名簿

西部西地域	西部東地域	中央部西地域	中央部中地域	中央部東地域	東部地域
小笠原 俊一	伊藤 悼	梶川 寿正	石田 英人	石橋 則保	久保 美智子
影山 光隆	立谷 菱筈	高橋 雅子	岡本 納	河内 一訓	佐藤 宣義
佐藤 紳	長田 昌聰	早川 美津子	亀卦川 清弘	河原 宏美	茂木 正俊
鈴木 学	伴辺 久子	細野 研一	高橋 清二	重本 清	春木 裕子
名越 晴男	松井 雅宏	大柿 昇	牧田 勝治	鈴木 愛一郎	古川 一彦
目代 保	三上 輪紀	越村 佳春	三浦 明雄	山田 幸雄	山本 健悟
爾波 寛文	武藤 儀太郎	小見山 利長	三ツ井 徳保	富菜 養一	小松 靖孝
青山 勇	伊藤 優子	角 拓夫	神谷 啓正		佐藤 健一
伊藤 三雄	越前 光一	三上 紲	木村 碩明		忍関 捷英
岩倉 新光	清野 始	宇南山 元治	西東 徹		林川 幸雄
佐々木 努	竹中 滋史	高坂 よし子	鷹栖 理晴		藤原 浩
渋谷 勉	室野 和行	嶋崎 宏史	橋本 智子		松岡 智代
袴田 寛通	板垣 晨	高橋 知克	矢谷 明朗		菅野 秀孝
鴻野 憲征	大石 和美	増川 誠一	山崎 栄		柴田 源市
宮越 博	庄司 邦雄		江川 豊		
	三上 保		佐竹 正芳		
	横井 春雄		佐藤 孝司		
	越智 恒夫		菅原 雅夫		
	金田 正弘		背戸 良之		
	久慈 旭		千葉 堯		
	坂 哲夫		丹治 康雄		
	白井 博治		長木 けい		
	白石 圭二		平山 誠		
	菅原 光雄				
	竹中滋夫				

(1) 西部西地域の意見

①西部西地域の特性と課題

地域別懇談会で出された西部西地域の特性と課題に関する主な意見を、項目ごとに下表にとりまとめました。

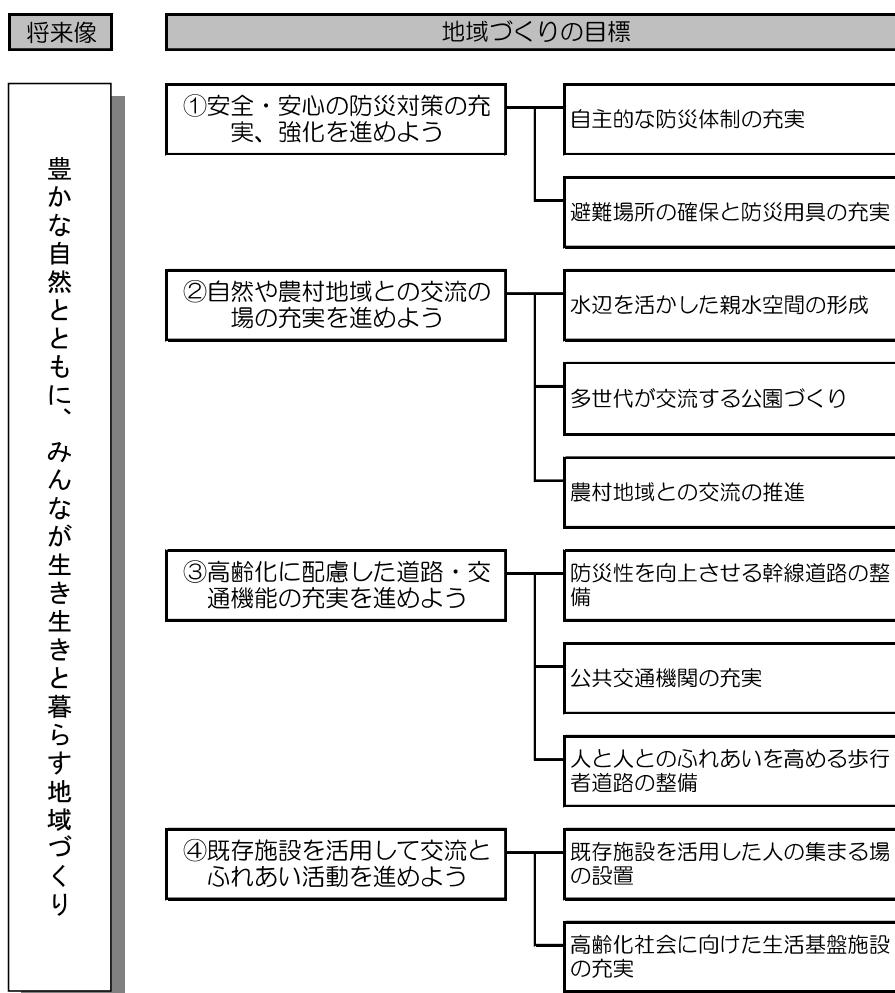
西部西地域の懇談会での主な意見

項目	主な意見	
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・自然を守り、生かし、生き生き暮らす ・お年寄りが元気な地域をつくる 	
緑	★自然	<ul style="list-style-type: none"> ・樽前山の雄姿が望める ・自然、緑が多い
	河川	<ul style="list-style-type: none"> ・サケがのぼる川、岩魚も棲むようなきれいな川 ・水と親しめる場が少ない
	★海	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸が殺伐としている（緑が少ない） ・海岸を活かした公園ができるないか ・水族館、海水浴場が欲しい
	公園	<ul style="list-style-type: none"> ・公園が多い、整備されている、管理がよい ・北星公園が自慢 ・高齢者用の公園が欲しい ・パークゴルフ場が欲しい
道路	道路整備	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路の整備が進んでいる ・生活道路の整備が遅れている ・中心部まで遠くて不便
	歩く道	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングロードがよい
	公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ＪＲ、市バスのアクセスが悪い
市街地	よい施設	<ul style="list-style-type: none"> ・大型店の進出で買物しやすい ・消防署機能が充実 ・福祉施設が充実
	★不満な施設	<ul style="list-style-type: none"> ・銀行、郵便局、医療機関などの生活必需施設が乏しい ・救急医療施設がない ・児童会館が欲しい ★高齢者のためのうるおいのある施設が欲しい
	住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・空地、空家の対策
	景観	<ul style="list-style-type: none"> ・調和のとれた街並み
	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・避難路が明確でない ・樽前山の噴火に対する備えが必要
農村	農業	<ul style="list-style-type: none"> ・苦小牧では数少ない農畜産業がある ・樽前かあちゃん市
	住宅地	<ul style="list-style-type: none"> ・300坪以上の農作物がつくれる宅地を ・田園居住の推進を
人	連帯感	<ul style="list-style-type: none"> ・連帯感が強い、親切な人が多い

★は、懇談会で特に重要とされた意見

②西部西地域の将来像と地域づくりの目標

地域別懇談会で出された西部西地域の特性と課題をもとに、地域の将来像と地域づくりの目標について議論した結果を下図にとりまとめました。



西部西地域の懇談会での将来像と目標

(2) 西部東地域の意見

①西部東地域の特性と課題

地域別懇談会で出された西部東地域の特性と課題に関する主な意見を、項目ごとに下表にとりまとめました。

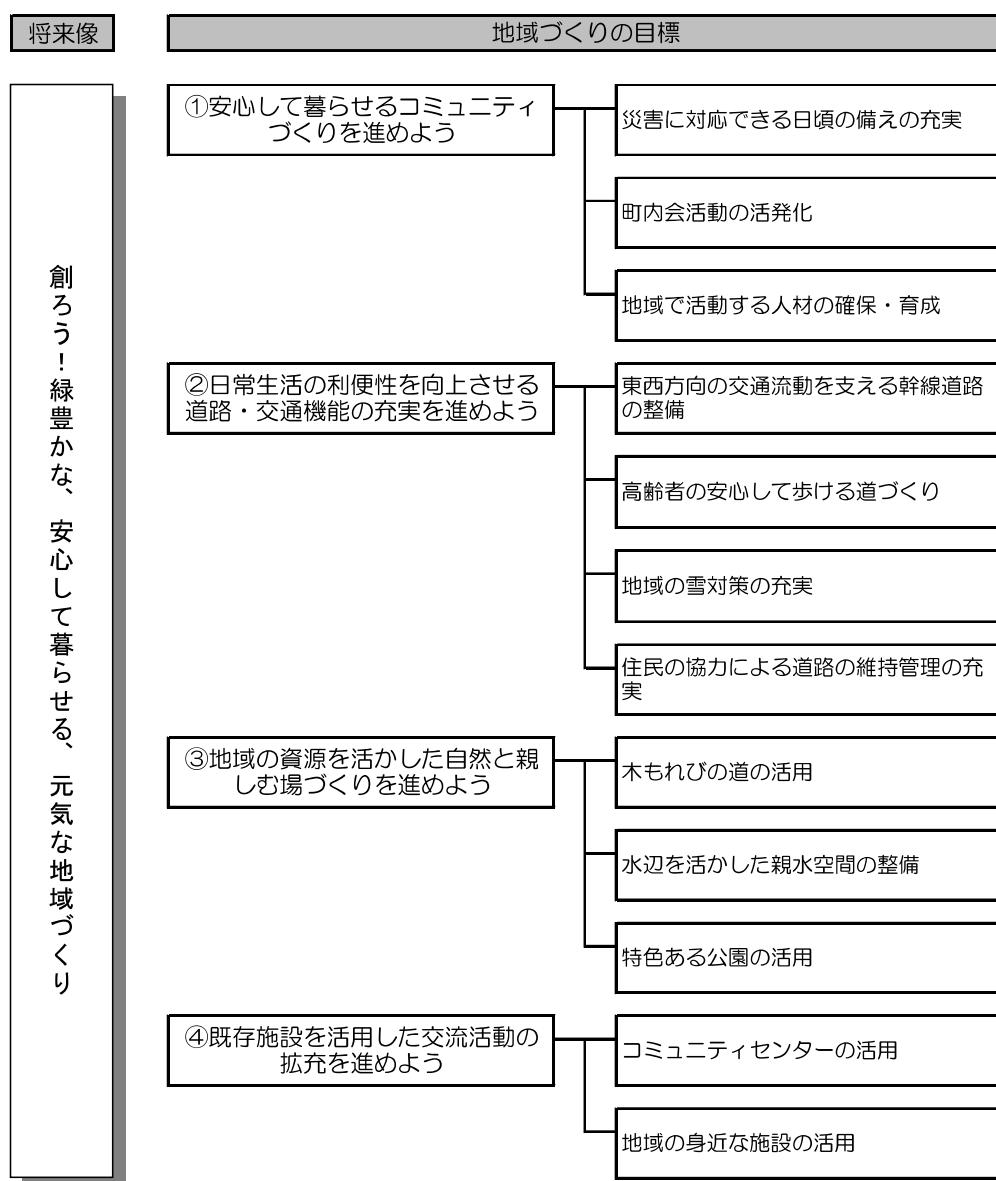
西部東地域の懇談会での主な意見

項目	主な意見	
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・安心、快適、ふれあい ・緑豊かな、うるおいのある、元気な地域づくりを、我が家から、地域から 	
緑	自然	<ul style="list-style-type: none"> ・樽前山麓のもと、小泉の沢川をはさんで両隣が山に囲まれ、糸井山神社がある街
	河川	<ul style="list-style-type: none"> ・水がきれいで岩魚がいる ・豊木川の流れが悪い、ごみが多い ・小糸魚川の公園、多くの人が散歩を楽しむ ・町内会で桜の苗木を植樹（柏木、宮の森）
	海	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸の景色がすばらしい ・海岸での親水空間が不足
	公園	<ul style="list-style-type: none"> ・ハマナスパークゴルフ場の運営管理がよい ・公園が画一的
	緑道	<ul style="list-style-type: none"> ・木もれびの道、散歩道として多くの人が利用
道路	道路整備	<ul style="list-style-type: none"> ・双葉3条通は渋滞して通勤が大変、バイパスが必要 ・双葉3条通の街路樹はすばらしい ・国道36号沿いは緑がない ・生活道路に通過交通が入ってきて危険
	歩く道	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道をバリアフリーに ・自転車ロードの充実を
	★公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・JRをはさんで、南北の通行が不便 ・糸井駅の北口、南口のにぎわいが欲しい
市街地	★よい施設	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会館が住民交流のサロンとしてにぎわっている ・都市施設が充実、病院が多い ・コミセン、温水プール
	不満な施設	<ul style="list-style-type: none"> ・コミセンがあるが、情報の発信が少ない ・身近な地域の図書館が欲しい ・ごみの収集場所が不潔
	住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・日新の市営住宅が老朽化、建替を ・閑静な住宅地、花づくりに熱心
	雪	<ul style="list-style-type: none"> ・除雪作業の遅滞が不満、生活道路が凸凹 ・企業、事業所の除雪が悪い
人	★連帯感	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の活動が活発、自立したまちづくり ・近所のあいさつ、協力が大切
	マナー	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の生活態度、自転車の乗り方、公園のトイレの落書き、ごみのポイ捨てなどマナーが悪い

★は、懇談会で特に重要とされた意見

②西部東地域の将来像と地域づくりの目標

地域別懇談会で出された西部東地域の特性と課題をもとに、地域の将来像と地域づくりの目標について議論した結果を下図にとりまとめました。



西部東地域の懇談会での将来像と目標

(3) 中央部西地域の意見

①中央部西地域の特性と課題

地域別懇談会で出された中央部西地域の特性と課題に関する主な意見を、項目ごとに下表にとりまとめました。

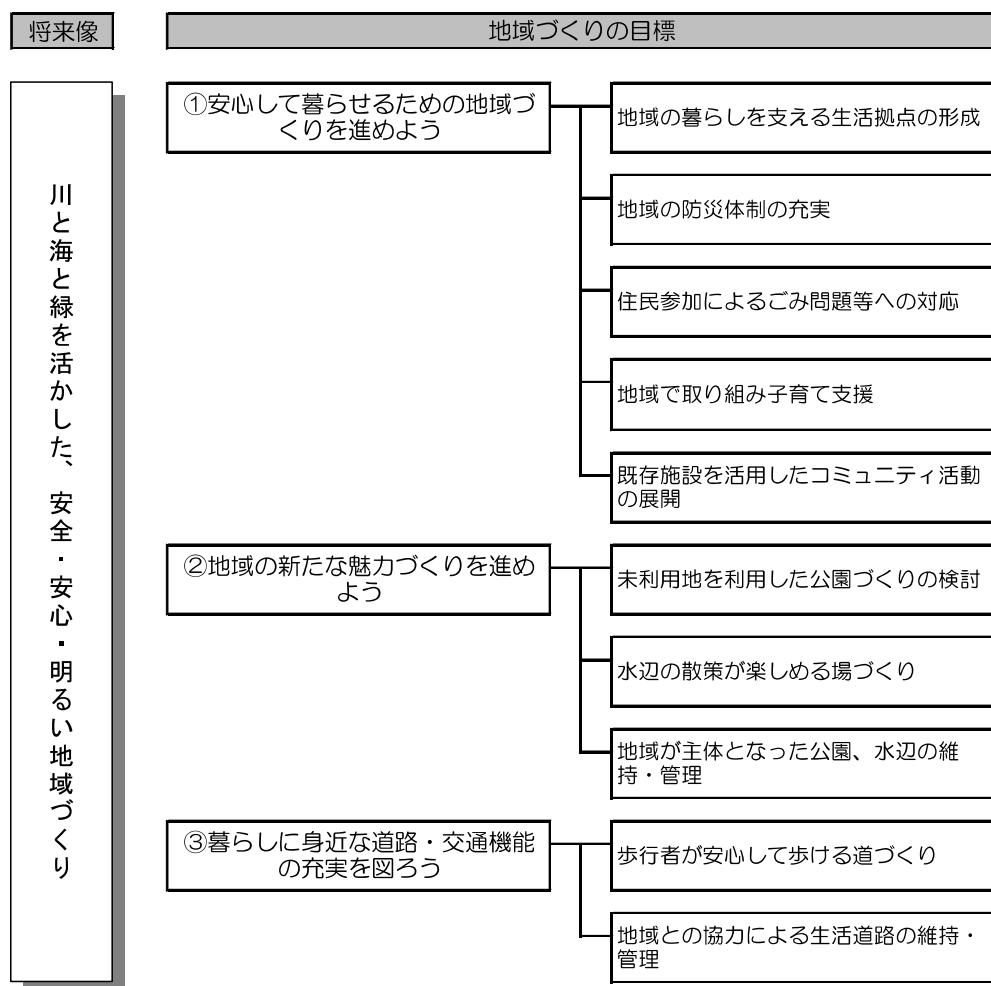
中央部西地域の懇談会での主な意見

項目	主な意見	
将来像	・川と海と緑を生かした地区、大規模未利用地を利用した南北の交流を	
緑	自然	・飲み水が美味しい ・公害が少ない←→空気が悪い ・製紙工場、下水処理場の臭気が心配
	河川	・苦小牧川の親水公園が整備されてよくなった
	★海	・海岸が殺風景←→海岸散歩を楽しめる
	公園	・緑地が少ない ・子どもの遊ぶ場所が少ない ・高齢者の運動できる場を（ゲートボールなど）
道路	道路整備	・道路が良く整備されている
	歩く道	・冬の散歩がしにくい
	公共交通	・JRをはさんで、南北の通行が不便 ・バスの便がよい
市街地	よい施設	・病院、福祉施設が整っている ・幼稚園、保育園、小中学校が近い
	不満な施設	・コミセン（人の集まる場）がない
	宅地	・王子製紙の空地があり、もったいない
	防災	・樽前山の噴火が不安、観測予知体制の強化を ・避難場所、避難ルートが不明
人	連帯感	・マンション、市営住宅と一般住宅の間の問題

★は、懇談会で特に重要とされた意見

②中央部西地域の将来像と地域づくりの目標

地域別懇談会で出された中央部西地域の特性と課題をもとに、地域の将来像と地域づくりの目標について議論した結果を下図にとりまとめました。



中央部西地域の懇談会での将来像と目標

(4) 中央部中地域の意見

①中央部中地域の特性と課題

地域別懇談会で出された中央部中地域の特性と課題に関する主な意見を、項目ごとに下表にとりまとめました。

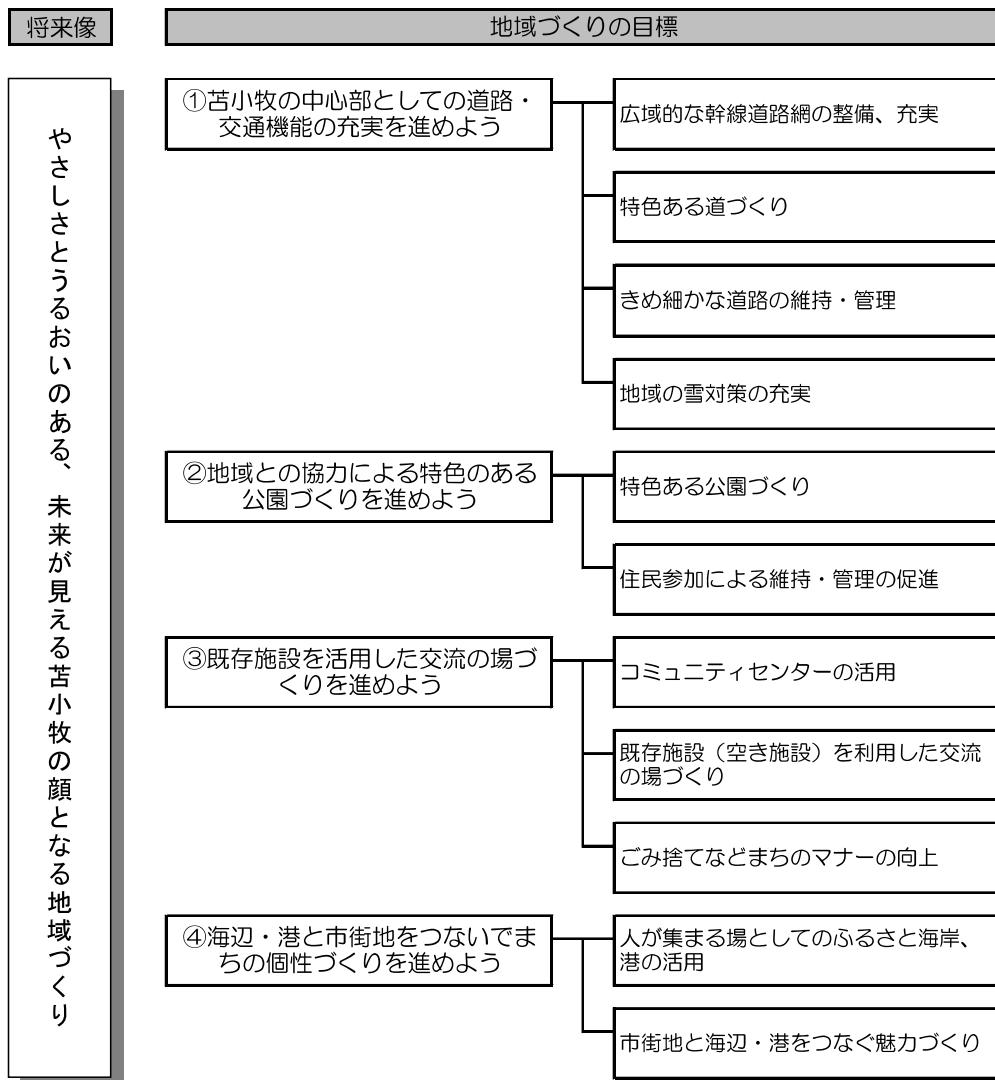
中央部中地域の懇談会での主な意見

項目	主な意見	
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・歩いて暮らせるまち～市の顔～ ・暮らしに便利、きれいな未来がみえるまち ・利便性とうるおいを兼ね備えたまちに！ 	
緑	自然	<ul style="list-style-type: none"> ・緑が多い（若草小保存林、高丘、文化公園など） ・北大苦小牧研究林が近く、自転車で行ける ・熊も出る
	河川	<ul style="list-style-type: none"> ・幌内川の公園化を
	海	<ul style="list-style-type: none"> ・港がある、市街地とのつながりを ・ふるさと海岸をもっと活用しよう
	★公園	<ul style="list-style-type: none"> ・緑が丘公園はとてもよい ・公園内の清掃を実施（楽会の人） ・公園のトイレが汚い、落書きがひどい ・高丘森林公園をもっと活用しよう ・使われていない公園がある ・公園には駐車場を設置すべき ・パークゴルフ場がある←→パークゴルフ場が欲しい
道路	★道路整備	<ul style="list-style-type: none"> ・国道36号は街路樹が少ない、殺風景 ・中央部にインターチェンジの設置を ・跨線橋の幅が狭くて危ない ・交通量が多いのに狭くて危ない道、交差点がある←→道路わきのパーキングをなくして散歩道にしては
	歩く道	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道の整備を ・カルチャーストリートが気持ちいい ・自転車でどこへでも行ける
	公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・バスの利用がしやすい
市街地	★よい施設	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設、体育施設が充実 ・駅、中心街、病院に近くて便利 ・コミュニティセンター、児童センターなどもある
	不満な施設	<ul style="list-style-type: none"> ・個人商店がすたれている ・外国語の案内板が不足 ★ごみステーションが汚れている
	住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・静かな住宅地 ・空き地が多くて草刈りが大変 ・市営住宅団地のつくりがさみしい
	雪	<ul style="list-style-type: none"> ・除排雪が悪い、改善が必要 ・坂道が多く、冬季の通行が大変
	防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯灯の整備がよい←→街灯が少ない
人	連帯感	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の協力体制がよい←→マンション、アパートが多く町内会への帰属意識が低い

★は、懇談会で特に重要とされた意見

②中央部中地域の将来像と地域づくりの目標

地域別懇談会で出された中央部中地域の特性と課題をもとに、地域の将来像と地域づくりの目標について議論した結果を下図にとりまとめました。



中央部中地域の懇談会での将来像と目標

(5) 中央部東地域の意見

①中央部東地域の特性と課題

地域別懇談会で出された中央部東地域の特性と課題に関する主な意見を、項目ごとに下表にとりまとめました。

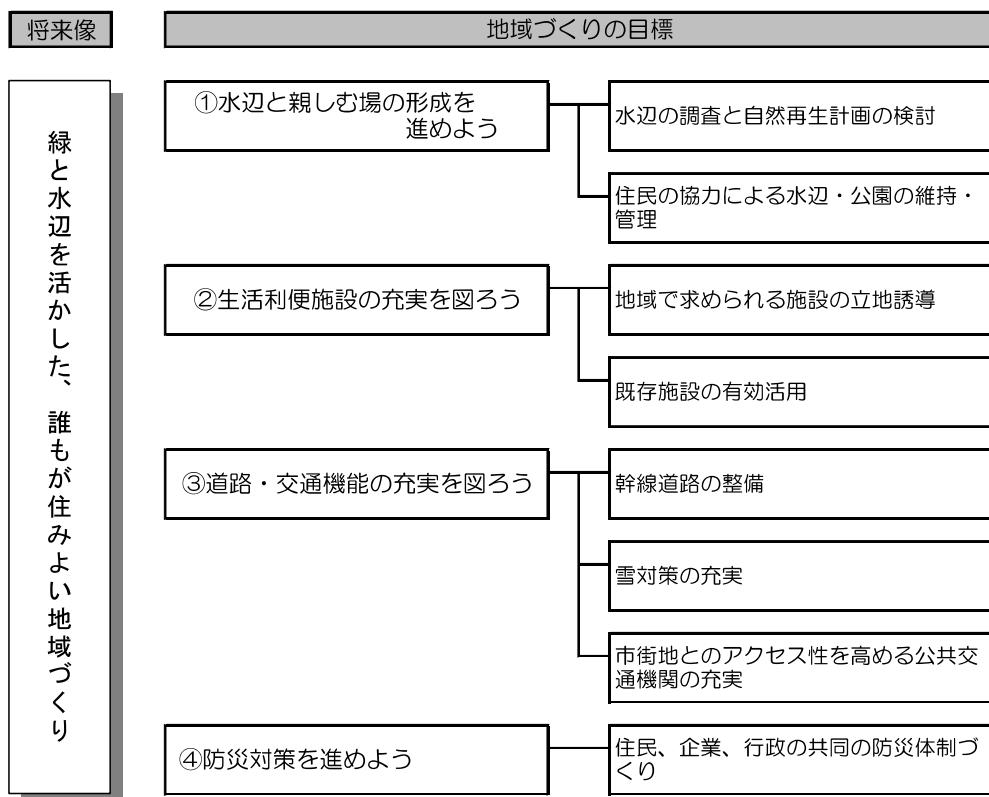
中央部東地域の懇談会での主な意見

項目	主な意見	
将来像		
緑	自然	<ul style="list-style-type: none"> ・北大苦小牧研究林は市民の憩いの場
	★河川	<ul style="list-style-type: none"> ・河川が親しめる環境ではない ・幌内川、明野川で子ども達が遊べるようにしたい
	海	<ul style="list-style-type: none"> ・海岸での遊び場がない
	公園	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した大きな公園が多い ・公園のごみ箱のごみがすごい ・公園の管理運営、活用を行政と市民の協働で
道路	★道路整備	<ul style="list-style-type: none"> ・空港、港に近い、札幌へのアクセスがよい ・市内へのアクセスが悪い ・低い街路樹が視界を悪くしている ・中央分離帯に、芝の替りに花を植えては ・道路網がよい←→道路整備が進んでいない ・工場が多いため、トラックの通行が多い
		<ul style="list-style-type: none"> ・バスの便が少ない
市街地	よい施設	<ul style="list-style-type: none"> ・病院、コンビニが多い ・商業の集積がある←→商業が充実していない ・小中高が近くにあり、若い世代には便利
	★不満な施設	<ul style="list-style-type: none"> ・駅がない、コミセンがない ・生活用品の店がない ・大学がない、公立大学の誘致を
	住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅地が少ない
	工業地	<ul style="list-style-type: none"> ・工業地帯であるが暗い、汚れている ・空き地のある工業団地 ・工業地帯のためか、広々とした空間でゆとりを感じる
	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・企業と住民による防災対策を
人	連帯感	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人が多く住んでいる、将来に希望が持てる

★は、懇談会で特に重要とされた意見

②中央部東地域の将来像と地域づくりの目標

地域別懇談会で出された中央部東地域の特性と課題をもとに、地域の将来像と地域づくりの目標について議論した結果を下図にとりまとめました。



中央部東地域の懇談会での将来像と目標

(6) 東部地域の意見

①東部地域の特性と課題

地域別懇談会で出された東部地域の特性と課題に関する主な意見を、項目ごとに下表にとりまとめました。

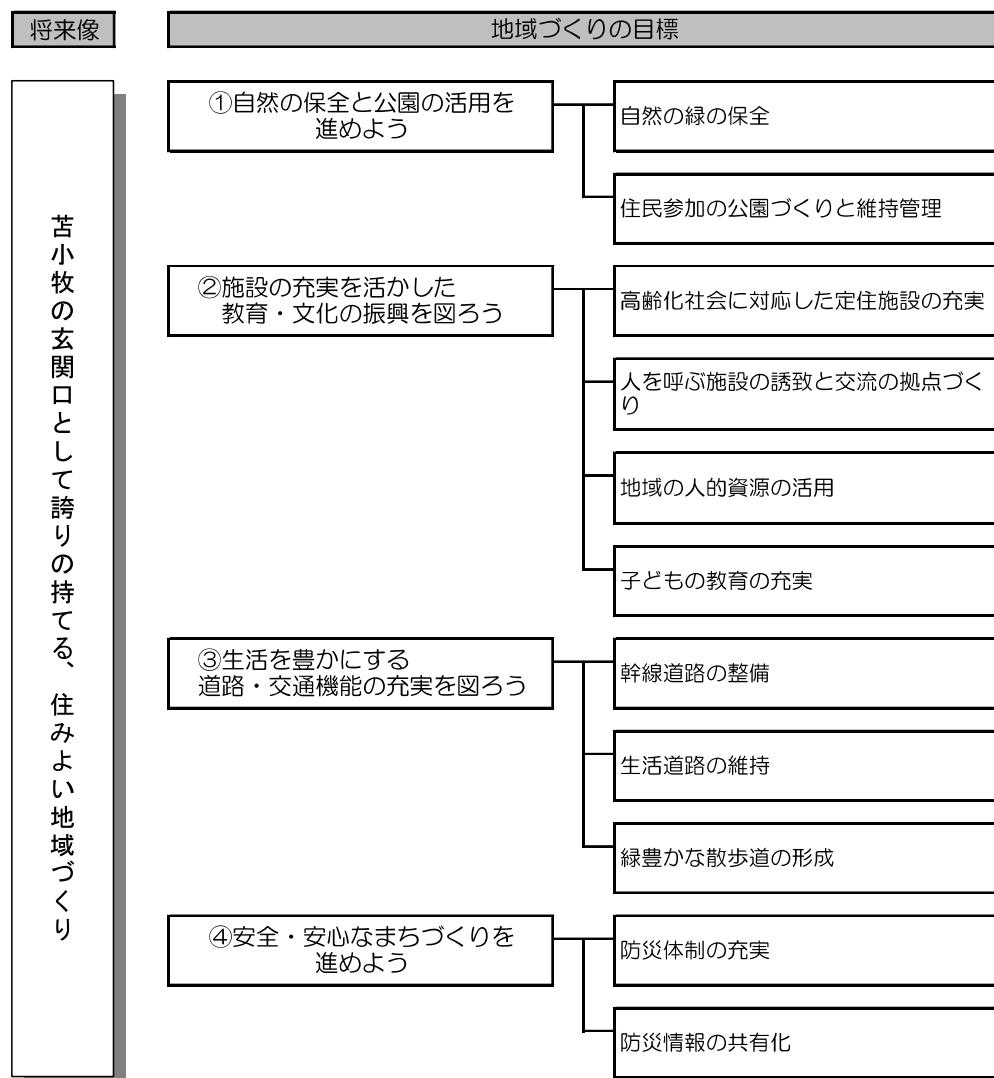
東部地域の懇談会での主な意見

項目	主な意見	
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・いこいのある街に ・苫小牧～北海道の玄関口として誇りの持てるまちに 	
緑	★自然	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然、ウトナイ湖 ・自然災害が少ない
	海	<ul style="list-style-type: none"> ・マリーナがありマリンスポーツに便利
	公園・緑	<ul style="list-style-type: none"> ・公園が整備されてきている←→勇払の街区公園が古く、利用されていない ・緑がなくなってきた ・区画整理が進んでいるが緑が少なく潤いがない
道路	★道路整備	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路が近い ・JR、フェリー、空港どこに行くにも便利←→交通量が多い、トラックが怖い、航空機騒音
	歩く道	<ul style="list-style-type: none"> ・木もれびの道のような散歩道が欲しい ・サイクリングロードを作って欲しい
	★公共交通	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地に行く公共交通の数が少ない ・沼ノ端駅の待合室を気持ちよく利用したい ・福祉施設へのアクセスサービスが欲しい
市街地	★よい施設	<ul style="list-style-type: none"> ・コミセン、アリーナなど公共施設が充実 ・ゴルフ場がたくさん近くにあって良い
	不満な施設	<ul style="list-style-type: none"> ・買物が不自由 ・医療施設の密度が市街地より乏しい ・文化施設（図書館）が不足 ・シンボル的な施設がない
	住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が減少傾向（勇払）←→急激な人口増により、まとまりがなくなる危険（沼ノ端）
	雪	<ul style="list-style-type: none"> ・除雪が悪い、雪捨て場がない
人	連帯感	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉活動が活発 ・町内会のまとまりがある ・他町からの移入者も時間をかけて溶け込める

★は、懇談会で特に重要とされた意見

②東部地域の将来像と地域づくりの目標

地域別懇談会で出された東部地域の特性と課題をもとに、地域の将来像と地域づくりの目標について議論した結果を下図にとりまとめました。



東部地域の懇談会での将来像と目標

2-4 夢コンクールの結果

苫小牧市の表情をもっと豊かなものとし、未来の可能性をさらに広げるために、平成13年に北海道内の人を対象とした「苫小牧の未来をデザイン・夢コンクール」が開催されました。

「苫小牧のまちづくり」をテーマに、800字以上の論文・作文が募集され、中高生の部252編、一般の部78編、合計330編の応募がありました。

審査の結果、中高生の部では優秀賞（1名）、佳作（4名）、奨励賞（22名）が、一般の部では審査委員会特別賞（1名）、佳作（4名）、奨励賞（11名）がそれぞれ選ばれました。

以下に、佳作以上の作品についてその概要を示します。

（1）中高生の部

①優秀賞の概要

●チャリンコロード（自転車道路）

- ・21世紀は、自転車が安心して走れる新しいまちづくりを。
- ・まち中に自転車専用道路を張り巡らして、サイクリングWeb（蜘蛛の巣）と呼ぼう。
- ・自転車をまち中の移動だけでなく、日常スポーツや競技スポーツとしても使おう。
- ・JR、フェリーターミナル、高速道路、国道などに駐輪施設を置き、サイクリングWebの拠点となる自転車の駅にしよう。
- ・自転車はMADE IN TOMAKOMAI（商標 tomato）ブランドにしよう。
- ・会社から広告入りの自転車を提供してもらおう。
- ・自転車のデポジット制度と登録制度があるといい。
- ・自転車修理店の情報、利用コースの道路情報などの提供を。

②佳作の概要

●安心できる苫小牧に！

- ・障害を持つ人たちのための養護学校、その後の仕事場をつくって欲しい。
- ・苫小牧を全道一、全国一弱者に優しい街として発展していく基礎を築いていきたい。

●おもしろ苫小牧

- ・子供からお年寄りまで、安全かつ気軽に出来かけられるように、苫小牧市内ならどこでも連れて行ってくれる「ピヨットコマシーン」を。
- ・いつでも行きたい場所へ道ができ、なつかつ道自体が動いてくれる「イン・ザ・スカイ」を。
- ・苫小牧市民に土と花や木の種を渡して、使わなくなった道路や土地に花や木を植えよう。

●A Jewel Day

- ・「Jewel Day」…宝石のような一日を市民全員で作り上げよう。
- ・普段働いている人は休んで、15~20歳の学生達が屋台を開いたり、物を制作したり、清掃をしたり、発表したりしよう。
- ・例えば、あらゆる場所でのスポーツ大会、学校のグランドでの屋台、公共施設での演劇や歌の発表会、クイズ大会など。
- ・あえてお金をかけて何かをするのではなく、自分達の力でできる何かをする。
- ・自然な街、純な街、苫小牧を残そう。

●住みやすい遊園地「TOMAKOMAI LAND」

- ・苫小牧全体が一つの巨大なテーマパークのような町に。
- ・町自体が大きなドームのようになっていて、開閉式だつたらいいな。
- ・町を3つにわけて、魚介類の名前、草花の名前、野菜の名前の町を。
- ・道路をなくして川にして、水上バイクなどで移動できたら素敵だな。
- ・家にいながら直接買物ができるようにすると便利だな。
- ・王子製紙の堀を水槽にしたら素敵だな。
- ・海に浮かべる海水浴場をつくって遊びたいな。

(2) 一般の部

①審査委員会特別賞の概要

●TOMATO 計画

- ・市民農園村＜トマト＞：苫小牧東部に広がる土地を利用し、さまざまな施設を併設した市民農園をつくる。市民農園、センターハウス、やすみ屋（納屋兼休憩所）、コテージ付き農園、センター農園、体験・研修センター、ふるさと森林など。
- ・どこでもガーデン＜ミニトマト＞：市街地に点在する空き地を、付近住民の菜園として有効利用。
- ・なんでも出前＜カルチャー・サービス トマト便＞：市民個々の要望に応じて畑作り、園芸一般への相談、指導、助言、手伝いを行う。

②佳作の概要

●苫小牧市フェリー発着場 西港の大変革－魅力ある港づくりをめざして－

- ・フェリー乗り場の近郊に、大グルメ街（仮称、西港グルメッチ）、遊びの国（仮称、遊ランドトマコマイ）を設けて、食べ歩きの街と大観覧車やジェットコースターを備えた遊びのメッカをつくる。

●苫小牧の未来は「国際芸術都市」

- ・植苗地区に「芸術村」をつくり、国内外からアーティストを招き、アトリエ、練習室、展示館、舞台ホール、アーティスト達の住居などの施設を提供する。
- ・「小学生のための絵画教室」、「音楽教室」、「文学サロン」等が開かれ、市民とアーティスト達との交流が盛んに行われる。
- ・アーティストは外国人の人達を積極的に招き、市民が「村」に住む外国人の人たちと積極的に交わることで、多種多様な思考、文化に触れることができ、それらを認めることで国際感覚が育つ。

●赤レンガ美術館＆道の駅の建設

- ・苫小牧の歴史的建造物である王子製紙の「旧赤レンガ事務所」を市民に開放して、「美術館」として蘇らせる。
- ・赤レンガ2個に市民が2,000円を投じてオーナーになってもらうことで、自分達の参加で美術館を建てる。1個は解体して建物に再使用し、残りの1個は自分の名前を刻んで記念とする。
- ・美術館に道の駅を併設する。道の駅には休憩所、物産コーナー、レストラン、カフェテリア、イベント広場、市民工房を設置。

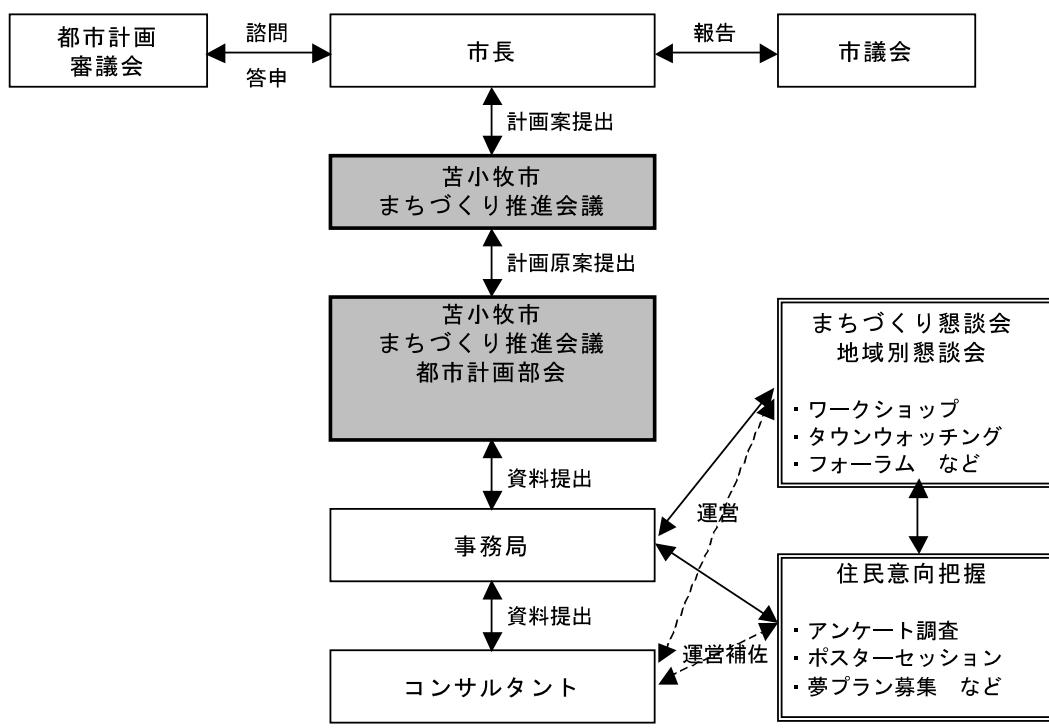
●ほんとうに幸せな街・とまこまいを目指して～のーす・えこまこまい21構想～

- ・「人間環境都市」から「北方圏生態系文化都市」への進化を。
- ・人材の発掘と登用。各種体験型学習プログラムによる人材育成。
- ・行政との協働プロジェクトを各町内会単位のまちづくりで行う。
- ・子供たちや、私たちの命を支えてくれる多くの生き物達、世界の人々とともに生き残る夢を実現するために、みんなと一緒に一步を踏み出しましょう。私たちの街から。

3. 計画策定の流れ

3-1 策定体制

住民参加による都市計画マスタープランの策定体制として、アンケートやワークショップ等さまざまな住民参加手法を実践するとともに、都市計画審議会やまちづくり推進会議を設置して議論を重ねました。



各組織とその役割

組織	役割	メンバー	備考
都市計画審議会	・計画案の最終確認	・学識者 ・住民代表	・計画案作成後に年1～2回
まちづくり推進会議	・計画原案をもとにした計画案の検討、総合調整	・助役を会長とする関係部長等	・節目ごとに年1～2回
まちづくり推進会議 都市計画部会	・現況データ、住民意向等をもとにした計画原案の具体的な検討	・関係課実務担当者(課長を含む)	・年2～3回
まちづくり懇談会 地域別懇談会	・ワークショップやタウンウォッチング等のさまざまな手法を用いた住民参加による計画への意見反映	・公募住民等	・手法に応じて適宜
住民意向把握	・アンケートや夢プラン募集等のさまざまな手法を用いた住民意向の把握	・市民	・手法に応じて適宜
事務局	・会議等の調整、運営 ・会議資料等の検討	・都市計画課 ・緑地公園課	
コンサルタント	・資料の収集・整理 ・会議資料等の提出		

●まちづくり推進会議名簿

助役
企画調整部長
総務部長
財政部長
市民部長
環境衛生部長
保健福祉部長
経済部長
都市建設部長
下水道部長
総合病院事務局長
交通部長
水道部長
消防長
学校教育部長
スポーツ生涯学習部長

●まちづくり推進会議都市計画部会名簿

企画調整部都市開発室企画課長	都市建設部開発指導主幹
企画調整部都市開発室空港周辺対策課長	都市建設部道路建設課長
企画調整部都市開発室開発主幹	都市建設部道路維持課長
財政部管財課長	都市建設部河川課長
市民部防災主幹	都市建設部緑地公園課長
市民部地域生活課長	都市建設部建築指導課長
市民部住宅計画課長	都市建設部建築第1課長
環境衛生部環境生活課長	都市建設部区画整理事務所
環境衛生部環境保全課長	下水道部計画課長
環境衛生部清掃事業課長	総合病院改築推進室
保健福祉部社会福祉課長	交通部総務課長
経済部商業観光課長	水道部建設課長
経済部企業誘致主幹	消防本部警防課長
経済部工業労政課長	学校教育部総務課長
経済部中心市街地活性化対策室	スポーツ生涯学習部生涯学習課長
経済部農業水産課長	スポーツ生涯学習部青少年課長
	スポーツ生涯学習部スポーツ課長

3-2 策定経過

	都市計画審議会	まちづくり推進会議 (都市計画部会)	まちづくり懇談会など
平成13年度	3月18日 都市計画審議会 ・経過報告	7月24日 都市計画部会① ・計画策定の流れ、策定体制等の確認 11月16日 都市計画部会② ・まちづくりの課題の検討 2月22日 都市計画部会③ ・まちづくりの課題と目標、将来都市構造等の検討	7月～10月 夢コンクール作品募集 ・苫小牧のまちづくりをテーマとした論文・作文の募集 9月 市民アンケート調査 ・市民2,000人に対するアンケート調査 10月19日 まちづくり懇談会① ・苫小牧のよい所・見直すべき所について意見交換 11月26日 まちづくり懇談会② ・緑をテーマに、具体的に何ができるかについて意見交換 12月23日 パネル展示・アンケート調査 夢コンクール表彰式
平成14年度	2月14日 都市計画審議会 ・計画(素案)報告	5月24日、27日 推進会議① ・中間報告 6月12日 都市計画部会④ ・まちづくりの基本方針等の検討 12月19日 都市計画部会⑤ ・まちづくりの基本方針等の検討	8月25日 まちづくり懇談会③ ・苫小牧の顔(都心部)づくりについて意見交換 10月27日 まちづくり懇談会④ ・地域の個性を生かした魅力あるまちづくりについて意見交換 2月19日 まちづくり懇談会⑤ ・計画(素案)について意見交換

	都市計画審議会	まちづくり推進会議 (都市計画部会)	まちづくり懇談会など
平成15年度	12月16日 都市計画審議会 ・全体構想（案）報告 ・地域別構想（素案）経過報告	<p>7月28日 推進会議② ・全体構想（案）の報告と地域別構想策定方針等の検討</p> <p>8月15日 都市計画部会⑥ ・推進会議の報告及び全体構想（案）の再確認</p> <p>1月26日 都市計画部会⑦ ・地域別構想の検討</p> <p>2月12日 都市計画部会⑧ ・地域別構想の検討</p> <p>2月24日 都市計画部会⑨ ・地域別構想の検討</p>	<p>9月2日＆3日 地域別懇談会① ・各地域ごとの特性と課題について意見交換</p> <p>10月21日＆22日 地域別懇談会② ・各地域ごとの検討テーマの抽出、テーマの実現に向けたアイデアについて検討</p> <p>11月25日＆26日 地域別懇談会③ ・各地域ごとの将来構想（たたき台）について意見交換</p>
平成16年度	8月23日 都市計画審議会 ・計画案諮問	<p>5月27日 都市計画部会⑩ ・計画原案について</p> <p>6月29日 推進会議③ ・計画原案提出</p>	

苫小牧市都市計画マスタープラン

平成16年9月

発行 苫小牧市
企画編集 苫小牧市企画調整部都市開発室都市計画課
〒053-8722 苫小牧市旭町4丁目5番6号
TEL 0144-32-6111(代)
FAX 0144-34-7110

<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/>
